

**平成 20 年度（2008 年度）**

**事業報告**

自 平成 20（2008）年 4 月 1 日

至 平成 21（2009）年 3 月 31 日

京都市中京区六角通新町西入西六角町 101 番地

社団法人 日本国際民間協力会

## 平成 20 年度（2008 年度）事業報告序文

会員、支援者、助成団体、外務省等数多くの方々及び団体より、事業に対する高い評価と組織運営への信頼を頂き、2008 年度も緊急災害支援、自立支援の双方の分野で、7 カ国・地域において無事に事業を完了することが出来たことは、本会職員の惜しみなき業務への献身も含めて、多くの関係者のご協力の賜物であった。

実施事業の概要は以下の通りである。

### 1. 緊急災害支援

2008 年度に発生した災害、人道危機への対応として、2008 年 5 月に発生したミャンマー・サイクロン被災者への巡回医療と物資配布、また中国四川地震被災者への物資配布を相次いで実施した。さらに 12 月に発生したパレスチナ・ガザでの戦闘の被災者支援を、パレスチナとヨルダンの事務所も協力の上、2009 年 2 月から 3 月にかけて迅速に実施した。

### 2. マラウィでの村づくりと保健衛生支援

2007 年度から実施のマラウィでの村づくりは、農業技術指導、エコサントイレによる衛生改善とし尿の農地還元、井戸の掘削による衛生改善、マラリア対策の蚊帳の配布、栄養改善、収入創出そして環境保全のための植林、さらに以上を定着させるための人材育成と、食、水、栄養、衛生、保健医療、環境を総合的に捉えた事業展開が実を結び、現地行政や国際機関からも評価を得るに至った。特にエコサントイレによるし尿の農地還元は、し尿を忌避する文化的な障壁を越えて高く評価されている。また 2008 年度より、日本から医療団を派遣しての本格的なマラリア予防と対策を、蚊帳の配布と組み合わせて開始している。

### 3. パレスチナでのオリーブ生産支援

中東問題の根幹となる対立を抱えるパレスチナの西岸地区においては、事業開始初年度において支援農家がエキストラバージンオリーブオイルを生産するに至り、欧州委員会支援のコンペティションで入賞する等高い品質の製品を産出するに至った。さらにパレスチナ、イスラエル、ヨルダン、日本のオリーブ関係者が一堂に会する第 3 回のワークショップを、ガザでの戦闘直後にイスラエルのナザレで開催し、この地域の信頼醸成に寄与している。

### 4. ヨルダンでのイラク難民支援と女性の能力開発

2007 年度から実施する在ヨルダンの約 50 万人のイラク難民に対する支援は、ザルカでの演劇を中心とした心理社会的ケアのプログラムが、地域社会を巻き込んで大きな展開を見せ、現地行政や国連機関からも評価を得るに至った。さらに 2000 年から支援を続ける南シユーナでは、女性グループと協力して地域の活動センターの建設を開始し、今後社会的地位の低い地域女性の能力開発と地位向上に結び付けて行く。

### 5. アフガニスタンへの支援

2002 年度より運営して来たイラン・マシャッドの IT 職業訓練校は、3,227 名のアフガン難民とイラン人への訓練を完了し、2008 年度をもって現地行政に移管した。またアフガニスタン国内では、引き続き現地 NGO と協力の上、女性への識字と IT の技能訓練を実施した。

### 6. 日本国内でのファンドレイジングと人材育成

以上の海外事業の実施のため、国内で様々なファンドレイジング活動を展開した。そして、国内外でのこれらの活動が可能となったのは、ボランティアで実務研修を行いながら、事業実施とイベント等の運営に当たったインターン達の貢献に寄るところが大きい。彼ら自身も、滋賀県竜王町のモデルファームでの研修や、本部と海外事務所での実務を経験することで成長し、有為の人材として国際社会へ巣立って行った。

平成 20 ( 2008 ) 年度事業報告  
【平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日】  
( ...新規事業、 ...継続事業 )

海外事業

A. 環境保全事業

1. パレスチナにおけるオリーブオイル品質向上と貧困削減支援 (パレスチナ・ヨルダン川西岸地区トバス県)  
収支計算書「パレスチナオリーブ」
2. パレスチナとヨルダンにおけるパーマカルチャー・ネットワークの構築 (パレスチナ・ヨルダン川西岸地区トバス県、ヨルダン・ジェラシュ県及びバルカ県)  
収支計算書「パレスチナ PC」
3. マラウイにおける食の安全保障の確立と衛生改善 (マラウイ・ンコタコタ県)  
収支計算書「マラウイ PC」
4. マラウイにおける貧困削減のための植林 (マラウイ・ンコタコタ県)  
収支計算書「マラウイ植林」

B. 技術協力事業

1. IT と製版職業訓練 (イラン・マシャッド市、アフガニスタン・ヘラート市)  
収支計算書「イラン・アフガン職業訓練」

C. 保健医療事業

1. マラウイにおける感染症総合対策 (マラウイ・ンコタコタ県)  
収支計算書「ヨルダン女性支援」

D. 女性の能力開発事業

1. ヨルダンにおける女性グループの能力開発による貧困削減 (ヨルダン・バルカ県)  
収支計算書「マラウイ医療」

E. 緊急災害援助事業

1. ヨルダンにおけるイラク難民支援 (ヨルダン・ザルカ県ザルカ市) 収支計算書  
収支計算書「イラク難民」
2. ミャンマーサイクロン被災者支援 (ミャンマー・エヤワディ管区)  
収支計算書「ミャンマーサイクロン」
3. 中国四川地震被災者支援 (中国四川省)  
収支計算書「中国四川地震」
4. ガザ人道支援 (パレスチナ・ガザ地区)  
収支計算書「ガザ人道支援」

## E. 調査・評価

### 1. 調査・評価

収支計算書「調査・評価」

#### 国内事業

##### A. 琵琶湖畔研修地における農林業研修と途上国モデルの構築

収支計算書「滋賀モデル農地」

##### B. 広報と活動資金の獲得

収支計算書「広報と資金獲得」

##### C. 会員との連絡と交流

収支計算書「会員・支援者交流」

#### 添付資料一覧

添付資料 : 2008 年度ムワザマ地区講習会開催実績 ( マラウイにおける 3 事業 )

添付資料 : マシャッド職業訓練校 2008 年度受講者・卒業生一覧 ( IT と製版職業訓練 )

添付資料 : アフガニスタンからの招聘講師によるワークショップ一覧 ( IT と製版職業訓練 )

添付資料 : 2008 年度マレンガチャンジ地区講習会開催実績 ( マラウイにおける感染症総合対策 )

添付資料 : ワークショップ・トレーニング実施実績 ( ヨルダンにおける女性グループの能力開発による貧困削減 )

添付資料 : 心理社会的ケアワークショップにおける心理テスト結果 ( ヨルダンにおけるイラク難民支援 )

添付資料 : カウンセリングプログラム概要 ( ヨルダンにおけるイラク難民支援 )

添付資料 : モバイルクリニック診察患者数と医療関連物資配布先 ( ミャンマーサイクロン被災者支援 )

添付資料 : 越冬支援物資配布事業配布物資一覧 ( 中国四川地震被災者支援 )

添付資料 : 海外派遣者一覧

## 海外事業

### A.環境保全事業

#### A1. パレスチナにおけるオリーブオイル品質向上と貧困削減支援

収支計算書「パレスチナオリーブ」

<b>事業名</b>	パレスチナにおけるオリーブオイル品質向上と貧困削減支援	<b>国・地域</b>	パレスチナ暫定自治区ヨルダン川西岸地区トバス県
<b>事業期間</b>	平成 20 年(2008 年)4 月から平成 22 年(2010 年)9 月(2 年 6 ヶ月)		
<b>委託団体</b>	国際協力機構(JICA)		
<b>事業実施の経緯</b>	イスラエルによる封鎖の影響によりパレスチナの地域経済は低迷、失業率も高い水準が続いている。隣国ヨルダンでの経験を経て、当会は 2006 年 11 月よりパレスチナでの調査を実施し、オリーブ農家の貧困削減のニーズが高いことから、パレスチナにおいてもオリーブオイルの品質向上支援を行うこととなった。		
<b>事業目的</b>	環境保全型節水有機農法等の導入により高品質のオリーブオイルの生産を支援する。製品の高付加価値化により国内及び国際市場に販路を拡大し、貧困農家の収入増加と経済的自立、ひいては地域社会の安定化に寄与する。		
<b>裨益者</b>	西岸地区トバス県 6 村のオリーブ農家 770 世帯(トバス 250 世帯、アッカーバ 150 世帯、ファール 80 世帯、タムーン 220 世帯、タヤシール 60 世帯、アカバ 10 世帯)		
<b>事業内容</b>	パーマカルチャーに基づく環境保全型節水有機農法の普及、オリーブ栽培の技術向上、収穫方法の改善、搾油工場への技術支援等によるオリーブオイルの品質向上、 ボトリング、ラベリング等によるオリーブ製品の高付加価値化と販路拡大、 オリーブ苗木の配布等による生産能力の強化、間作作物配布等による農家の収入の安定化、 農家のキャパシティ・ビルディング、農家組合結成の支援		
<b>具体的な事業活動と成果</b>	<p>1. 環境保全型節水有機農法、オリーブ栽培技術、エキストラバージンオイル製造及びマーケティングに関するワークショップを計 7 回開催した。</p> <p>2. 代表農家(28 農家)を対象に収穫手法の指導等を行い、収穫されたオリーブからトバス近郊の搾油工場にて最高品質とされるエキストラバージン(EV)オイル計 2 トンの試験的生産に成功した。この EV オイルは、EU の支援で開催されたコンペティションにて、27 の参加者中、5 位に入賞し、品質の高さが確認された。</p>	 <p>トバスにおける日本人専門家による農場指導の様子。等高線測定につき農家を実技指導した。</p>	

	<p>3.有機農業専門家西村和雄氏がトバスを訪問し、環境保全型節水有機農法に関して、実技指導によって技術移転を行った。</p> <p>4. 1,740 本(30 農家に各 58 本)のオリーブ苗木の配布を行った他、土壌肥沃化のためのマメ科の植物や、オリーブの隔年結実対策の葡萄、チェリー、ざくろ、ピーカン等を、間作植物として配布した。</p> <p>5.EV オイルの販促のためイスラエルで国際品評会に参加し、イスラエルのバイヤーや観光地のみやげ物屋等を対象に製品紹介を行った。さらに日本市場での販路確保のため、約 400 本の配布用サンプルを日本に輸送し、製品紹介を行った。</p> <p>6. EV オイル製造と販売活動、そして収入向上の持続性を確保するため、28 農家による「トバスオリーブ農家グループ(Tubasee Olive Farmer's Group)」の結成を支援した(2009 年 4 月には「トバス聖なる木農業組合(Tubas Holy Tree Cooperative)」として正式に農業組合登録)。</p>	
<p><b>【事業費】実施額 25,645,228 円(予算額 26,339,167 円)</b></p>		

## A 2 . パレスチナとヨルダンにおけるパーマカルチャー・ネットワークの構築(注 1)

収支計算書「パレスチナ PC」

<p><b>事業名</b></p>	<p>パレスチナとヨルダンにおけるパーマカルチャー・ネットワークの構築</p>	<p><b>国・地域</b></p>	<p>パレスチナ暫定自治区ヨルダン川西岸地区トバス県及びヨルダン・ハシエミット王国ジェラシュ県</p>
<p><b>事業期間</b></p>	<p>平成 18 年(2006 年)11 月から平成 22 年(2010 年)3 月(3 年 5 ヶ月)</p>		
<p><b>助成団体</b></p>	<p>環境再生保全機構「地球環境基金」</p>		
<p><b>事業実施の経緯</b></p>	<p>過去のヨルダンでのオリーブ農家支援の実績から、隣国パレスチナにおけるオリーブ農家の支援を現地 NGO 等から要請され、パレスチナの農家の貧困削減と平和の構築に寄与するため、ヨルダンの経験をパレスチナに繋げるための事業を開始することとなった。</p>		
<p><b>事業目的</b></p>	<p>パレスチナ及びヨルダンにて、パーマカルチャーの概念に基づく農法を普及させ、農家の貧困削減を支援する。また、ヨルダン、パレスチナ、イスラエル及び日本の 4 カ国のオリーブ関係者(農家、専門家、NGO 及び行政関係者等)が一堂に会するワークショップを開</p>		

	催し、信頼の醸成と平和の構築に貢献する。	
<b>裨益者</b>	西岸地区トバス県 6 村約 100 世帯（500 人） ヨルダン・ジェラシュ県農家 50 世帯（300 人）	
<b>事業内容</b>	環境保全型有機農法の普及と技術向上及びオリーブ関係者の人材育成 パレスチナ、イスラエル、ヨルダン及び日本のオリーブ関係者のネットワーク構築	
<b>具体的な事業活動と成果</b>	<p>1. 環境保全型農業実践の観点から喫緊の課題となっているオリーブミバエ対策のため、2008 年 11 月に日本人専門家 2 名を派遣し、農家に経済的負担の少ない駆除方法の確立のため現地調査を行い、パレスチナ、イスラエル及び日本の協働体制を整えた。また、オリーブ搾り粕の有効活用を実践に移すため、パレスチナで手動の固形燃料作成機を製造し、実験的に約 2,000 個の固形燃料を生産した。</p> <p>2. ヨルダンのジェラシュにパレスチナのオリーブ関係者（リーダー農家、農業庁技官、現地 NGO、オリーブ専門家）を招待し、環境保全型農業に関するワークショップを開催した。有機 JAS 認証を得ているヨルダン農家との交流により、パレスチナ農家の有機農業に対する意欲が高まった。</p> <p>3. イスラエルのナザレにパレスチナ、ヨルダン及び日本のオリーブ関係者を招いて、オリーブオイルの製造過程で発生する副産物（搾り粕及び廃水）の有効活用をテーマにワークショップを開催した。オリーブ副産物の研究の進むイスラエルの専門家の講義等によりパレスチナとヨルダンの参加者の問題意識が高まり、3 地域のオリーブ関係者間のネットワーク構築が進展した。</p>	 <p>イスラエルの専門家の案内で、イスラエルのオリーブ協会のオリーブ農園を訪問したパレスチナ及びヨルダンのオリーブ農家及び農業省技官。地中海諸国発祥の各種オリーブの特徴等につき、専門家より説明を受けた。</p>
<b>【事業費】 実施額 9,699,109 円（予算額 9,629,705 円）</b>		

（注 1）パーマカルチャー（PC）：オーストラリアのパーマカルチャー研究所・所長ビル・モリソン氏が 1979

年に確立した理論である。単に環境に配慮しただけの生活ではなく、持続可能な無農薬・有機農法を基本とし、水・土・植物・畜産・水産・建造物・人々・経済、都市と農村、これら全てを考慮し、組み合わせて地域全体を設計するところに特色がある。

### A 3 . マラウィにおける食の安全保障の確立と衛生改善

収支計算書「マラウィ PC」

<b>事業名</b>	マラウィにおける食の安全保障の確立と衛生改善	<b>国・地域</b>	マラウィ共和国ソコタ県ムワザマ地区
<b>事業期間</b>	平成 19 年(2007 年)7 月から平成 22 年(2010 年)1 月(2 年 6 ヶ月)		
<b>委託団体</b>	国際協力機構(JICA)		
<b>事業実施の経緯</b>	2005 年末から 2006 年初頭においてマラウィでは 400 万人が食糧不足に面する非常事態宣言が政府より出された。事業地のソコタ県はマラウィの中でも貧困ライン以下の所得を示す貧困地域にあたる。このような状況の中で 2006 年 2 月にソコタ県ムワザマ地区において約 930 世帯の農民への緊急の穀物種子配布を行ったが、食糧不足の抜本的な解決として、持続可能な発展を目指して 2007 年 7 月より本事業を開始した。		
<b>事業目的</b>	パーマカルチャーに基づいた環境保全型農法により食の安全保障を確立すると共に、モデルエコサントイレ(注 2)を導入し衛生改善を図る。		
<b>裨益者</b>	ソコタ県ムワザマ地区(ムワザマ・チグウェ・ニャンジェ・スルウィ)の 24 カ村 60 集落の 1,249 世帯(5,831 人)		
<b>事業内容</b>	土壌改良に関するパーマカルチャー講習会の開催と実習、土壌の肥沃化と衛生改善のためのモデルのエコサントイレ導入、穀物種子配布と作付け指導、衛生改善に対する技術移転		
<b>具体的な事業活動と成果</b>	<p>1. パーマカルチャーの技術移転を目的として、有機肥料作りと施肥管理、マルチング(土壌被覆)、メイズと豆科植物の混栽による土壌改良の講習会・実習や乾季作物の栽培講習会・実習を行い、のべ 49 回で 1,330 名が参加した(講習会開催実績は添付資料 参照)。</p> <p>2. 2008 年度に建設したモデルとなるエコサントイレの使用法の指導及び衛生化した便と尿の畑への施肥について、普及を行った。便と尿を有機肥料として施肥した農地の土壌肥沃度を測るため、メイズ(トウモロコシ)の収量調査を行ったところ、無施肥の圃場に比べ、有機肥料を</p>	 <p>現地スタッフによる土壌改良講習会の様子。</p>	

	<p>施肥した圃場の平均収量は約 3.4 倍増加という結果になった。</p> <p>3. 在来種子の保存(ローカルシードバンク)に関する講習会・実習をのべ 21 回、869 名に実施した。</p> <p>4. モデルとなるエコサントイレの建設と利用の普及を行い、地域の衛生状況が改善された結果、2008 年から 2009 年にかけて、事業地全体でコレラ疾患患者ゼロに抑えることができた。(ンコタコタ県保健省の発表による)</p>	 <p>日本人スタッフも参加したローカルシードバンクの講習会。</p>
<p><b>【事業費】実施額 24,286,683 円(予算額 24,851,688 円)</b></p>		

(注2)エコロジカルサニテーション(環境衛生式)トイレの略。マラウイで導入したモデルはし尿(便と尿)を分離して処理し、栄養分の多い尿はすぐに希釈して畑に還元し、便は便層に滞留させ、灰をかけて pH を上げてアルカリ性にすることで半年程度かけて衛生化し、土壌改良剤として畑に還元することが可能となる。

#### A 4 . マラウイにおける貧困削減のための植林

収支計算書「マラウイ植林」

<b>事業名</b>	マラウイにおける貧困削減のための植林	<b>国・地域</b>	マラウイ共和国ンコタコタ県ムワザマ地区
<b>事業期間</b>	平成 19 年(2007 年)4 月から平成 24 年(2012 年)3 月(5 年間)		
<b>助成・寄付団体</b>	国土緑化推進機構「緑の募金」、三井物産環境基金、岡山南ロータリークラブ、国際ロータリー 2630 地区(岐阜県、三重県)		
<b>事業実施の経緯</b>	2005 年末から 2006 年初頭においてマラウイでは 400 万人が食糧不足に面する非常事態宣言が政府より出された。事業地のンコタコタ県はマラウイ国の中でも貧困ライン以下の所得を示す貧困地域に当たり、森林喪失のため土地が痩せている。このような状況の中で 2006 年 2 月にンコタコタ県ムワザマ地区において約 930 世帯の農家へ緊急の穀物種子配布事業を行ったが、食糧不足と森林破壊に対する抜本的な解決として、2007 年 4 月より本事業を開始した。		
<b>事業目的</b>	パーマカルチャーに基づいた環境保全型農法により自生種の有用樹を中心に植林を行い、地域住民の貧困の克服と環境保全、地球温暖化の防止に寄与する。また、井戸の建設とエコサントイレの普及を通じて、衛生改善を図る。		
<b>裨益者</b>	ンコタコタ県ムワザマ地区(ムワザマ、チグウェ、ニャンジェ、スルウィ)の 24 カ村 60 集落の 1,249 世帯世帯(5,831 人)		
<b>事業内容</b>	自生種有用樹木(ジャトロファ、モリンガ、果樹、竹)の植林による環境保全、栄養改善と収入創出、土壌の肥沃化と衛生改善のためのエコサントイレの普及、井戸の		


	建設	
<p><b>具体的な事業活動と成果</b></p>	<p>1. 12月にモリンガに関する栽培方法やその加工技術などに関する講習会を開催した。講習会終了後には、参加者に各々2kgのモリンガ種子を配布した他、栄養改善のためバナナ、レモン、パパイヤ等の苗木を各1~2本、また収入創出の一環として竹の苗木を配布した。さらにモリンガの料理講習会や通して、実践的なモリンガの活用方法の普及を行った(参加者数63名、講習会開催実績は添付資料参照)</p> <p>2. 2007年度に引き続きエコサントイレの建設を行い、2009年3月末現在、306基が建設されている。またトイレの使用に関するモニタリングと講習会をのべ32回実施し、合計620名が参加した。講習会は裨益者を小グループに分け、村内保健委員会と協力の上で各自のトイレの相互訪問をすることで、トイレ管理について使用者の意識を高めることに成功した。また2008年度はエコサントイレから衛生化した便を取り出し、畑に還元する事ができたため普及が加速した。マラウィでは便を肥料に使う文化・習慣は見られず、普及には当初困難も予想されたが、し尿の施肥とその結果を通じて、裨益者の考えも変わったことが確認された。</p> <p>3. 安全な水へのアクセスが困難な10カ村を対象に10基の井戸を建設した。各井戸に11名からなる井戸管理委員会を組織し、5日間に渡り井戸のメンテナンスに関する講習会を実施した(のべ10回、参加者数550名)</p>	<div data-bbox="927 322 1426 685" data-label="Image"> </div> <p>エコサントイレから取り出された、衛生化された便。土壌改良剤として畑に還元する。</p> <div data-bbox="927 801 1426 1164" data-label="Image"> </div> <p>苗木を配布した学校の教員に聞き取りを行うNICCOインタビュー。</p>
<p><b>【事業費】実施額 13,538,272 円 ( 予算額 14,822,985 円 )</b></p>		

## B.技術協力事業

### B1 . IT と製版職業訓練

収支計算書「イラン・アフガン職業訓練」

<b>事業名</b>	IT と製版職業訓練	<b>国・地域</b>	イラン・イスラム共和国ホラサン県 マシャッド市、アフガニスタン・イスラム共和国ヘラート州ヘラート市
<b>事業期間</b>	平成 14 年（2002 年）10 月から平成 21 年（2009 年）3 月（6 年 6 ヶ月）		
<b>助成団体</b>	外務省日本 NGO 連携無償		
<b>事業実施の経緯</b>	2001 年のタリバン政権崩壊後にアフガニスタンで実施した調査結果を踏まえ、イランに滞在していた 200 万人以上の難民の帰還支援を目的に 2003 年 9 月に同国マシャッド市にて職業訓練校を開校し、5 年計画にて運営してきた。また女性の教育水準の改善及び就職支援を目的に、アフガニスタン・ヘラート市において、2006 年 4 月より識字教室を、2008 年 9 月より IT 訓練コースを開講している。		
<b>事業目的</b>	マシャッド職業訓練校：アフガン難民の技能習得を支援することで、アフガニスタンに帰還後の経済的自立及び定住を促進する。またイラン人貧困層に対しても技能習得を支援することで、就業の促進と生活改善を図る。 ヘラート識字教室：女性の識字率の改善と IT 技能の習得により、女性の能力の向上と社会参画の促進を目指す。		
<b>裨益者</b>	マシャッド職業訓練校：卒業生 600 名（平成 15 年度からの累計：卒業生のべ 3,227 名）。 ヘラート識字教室：履修生 130 名（識字教室 20 名、衛生教育 20 名、IT 職業訓練 90 名）。		
<b>事業内容</b>	マシャッド職業訓練校：アフガン難民・イラン人貧困層に対する IT 技能・英語の訓練の実施、およびアフガニスタンから講師を招聘しての就職支援ワークショップの開催。 ヘラート識字教室：成人女性を対象に識字、衛生教育、IT 技能訓練の実施。		
<b>具体的な事業活動と成果</b>	1 . マシャッド職業訓練校：2007 年度から引き続きコンピュータ初級、ネットワーク技術、英語（初級・中級）、映像制作、会計のコースを提供するとともに、日本 NGO 連携無償を活用して印刷製版、英語上級、ハードウェア管理等の上級コースを開講し、合計で入学生の 82%にあたるのべ 600 名が卒業した（添付資料 参照）。また、アフガニスタンから講師を招聘し同国の現状や就業に関するセミナーを提供することで、難民の帰還	 <p>英語上級コースのディスカッションに参加する NICCO インターン。</p>	

	<p>意識向上を図った（添付資料 参照）。</p> <p>2.ヘラート識字教室：運営を現地団体に移管し、ヘラート市郊外にて識字や衛生教育の授業を実施するとともに、2008年9月よりIT技能訓練コースを開講して女性の能力向上と社会参加の促進を図った。今年度の履修生は識字教室20名、衛生教育20名、IT技能訓練コース90名で、特にIT技能訓練コースの開講式では地方自治体の局長が来訪するなど地域の注目を集めている。</p>	 <p>マシャッド職業訓練校の生徒にアフガニスタンの就職・生活事情を説明するアフガニスタンからの招聘講師。</p>
<p><b>【事業費】実施額 10,041,823 円（予算額 10,086,973 円）</b></p>		

## C. 保健医療事業

### C1. マラウイにおける感染症総合対策

収支計算書「マラウイ医療」

<b>事業名</b>	マラウイにおける感染症総合対策	<b>国・地域</b>	マラウイ共和国ンコタコタ県マレンガチャンジ地区、ムワザマ地区
<b>事業期間</b>	平成20年（2008年）10月から平成22年（2011）9月（3年間）		
<b>助成団体</b>	外務省日本 NGO 連携無償		
<b>事業実施の経緯</b>	2007年度よりンコタコタ県ムワザマ地区にて行っている持続可能な村落開発の実績による同県からの要請に基づいて、マレンガチャンジ地区に事業地を拡大し、栄養状態の改善の他、保健医療・公衆衛生の改善を主眼とした事業を開始することとなった。		
<b>事業目的</b>	ンコタコタ県マレンガチャンジ地区及びムワザマ地区における保健医療、公衆衛生及び栄養状態を改善する。		
<b>裨益者</b>	ンコタコタ県マレンガチャンジ地区（18カ村、664世帯、4,037人）及びムワザマ地区（24カ村、1,249世帯、5,831人）の住民		
<b>事業内容</b>	マラリアの検査・治療・予防、エコサントイレと井戸の建設、種子・苗木の配布、農業技術指導、以上各分野の裨益者の能力開発を目的とした講習会の実施		

<p><b>具体的な事業活動と成果</b></p>	<p>1. 保健医療：乾季(2008年11月)及び雨季(2009年1月)の2度にわたり日本人医師3名を派遣して、マレンガチャンジ地区の1200名以上の村人を対象にマラリアの検査を実施し、陽性反応者には治療薬を処方した。その後、マレンガチャンジ地区とムワザマ地区にて計1500帳の蚊帳を無料配布した。</p> <p>2. 公衆衛生：マレンガチャンジ地区にて10基の井戸建設を行い、それぞれの井戸に対して村人自身による運営委員会を組織し、彼らに対する講習会を実施した。また、現在建設中のもも含め、約40基のエコサントイレ建設を行った(講習会開催実績は添付資料とを参照)。</p> <p>3. 栄養改善：マレンガチャンジ地区にて全農家470世帯に対してメイズ、米、豆類、モリンガ、果樹類の種子・苗木の配布を行った。また、モデル農家に対してパーマカルチャー農法の技術指導を行った。</p>	 <p>住民の検診を行い、マラリアの治療薬を処方する日本人医師。</p>
<p><b>【事業費】実施額 27,462,182円(予算額 28,084,558円)</b></p>		

**D. 女性の能力開発事業**

**D1. ヨルダンにおける女性グループの能力開発による貧困削減**

収支計算書「ヨルダン女性支援」


<p><b>事業名</b></p>	<p>ヨルダンにおける女性グループの能力開発による貧困削減</p>	<p><b>国・地域</b></p>	<p>ヨルダン・ハシェミット王国バルカ県南シューナ郡</p>
<p><b>事業期間</b></p>	<p>平成20年(2008年)10月から平成23年9月(3年間)</p>		
<p><b>助成団体</b></p>	<p>外務省日本NGO連携無償</p>		
<p><b>事業実施の経緯</b></p>	<p>当会は平成12年度から平成18年度にかけて、南シューナ郡にて環境保全型農業の普及と女性グループの活動支援を実施したが、女性グループが現地NGOとして活動実績を積み、自立して活動可能となったことを受け、地域の活動センターを建設の上で協力して運営し、社会的立場が弱い同地区の貧困女性の収入創出とキャパシティ・ビルディングを行うことになった。</p>		


<b>事業目的</b>	<p>現地 NGO、アル・ジャワースレ及び地域住民の活動拠点となる活動センターを建設し、地域女性による手工芸品の生産や養蜂による収入創出活動を通して、女性の能力開発（エンパワメント）を目指す。また養蜂の実施に合わせて、蜜源となる木々を中心に植林を行い、地域の砂漠化防止と環境保全に貢献する。</p>	
<b>裨益者</b>	<p>南シューナ郡アル・ジャワースレ村を中心とした 5 か村の女性人口約 14,500 人</p>	
<b>事業内容</b>	<p>活動センターの建設、手工芸品の生産、養蜂、食品加工等の収入創出活動による女性の能力開発、植林による砂漠化防止・環境保全、センター建設において地元の失業者を雇用することによる雇用創出と土囊建築の技術移転</p>	
<b>具体的な事業活動と成果</b>	<p>1. 日本人の建築専門家と建築スタッフが現地入りし、現地の建築家と協力の上1月より活動センターの建設を開始、2月8日には在ヨルダン日本大使や社会開発省大臣を招いて着工式を実施した。建設の一部（土囊建築）では、地元の失業者を雇用することで地域の雇用創出に貢献し、現場での指導を通して建築の技術移転も実施しており、同年6月に完成予定である。</p> <p>2. 現地 NGO アル・ジャワースレのメンバーを中心とする地域の女性を対象に、伝統刺繍をほどこした小物や、わら製バスケット等の手工芸品生産のトレーニングなど、各種講習会を実施した。（添付資料 参照）</p> <p>3. 農業省の専門家を招いて養蜂の講習会を実施し、養蜂箱 15 セットを導入した。現在は専門家によるモニタリングを定期的に行い、6月から採蜜を開始する予定である。また、養蜂箱の設置に合わせて植林やハーブの作付けを行い、地域の砂漠化防止と環境保全を促進している。</p>	<div data-bbox="932 667 1406 1016" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="906 1043 1469 1218">           地元の女性や小学生に土囊を用いた建築技法の講習会を実施する日本人建築家。ヨルダン伝統建築の石造と土囊建築を融合させたデザインで、地元の暑い気候に適した建物が完成予定。         </p> <div data-bbox="932 1256 1426 1621" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="906 1637 1469 1812">           完成した手工芸品（わら製バスケット）を披露する女性グループのメンバー。合計6日間のトレーニングコースにより、販売できるレベルの製品を作れるようになった。         </p>
<p><b>【事業費】 実施額 16,810,651 円（予算額 16,788,712 円）</b></p>		

## E.緊急災害援助事業

### E 1 . ヨルダンにおけるイラク難民支援

収支計算書「イラク難民支援」


<b>事業名</b>	ヨルダンにおけるイラク難民支援	<b>国・地域</b>	ヨルダン・ハシェミット王国ザルカ 県ザルカ市及びルサイファ市
<b>事業期間</b>	平成 19 年（2007 年）11 月から平成 22 年（2010 年）11 月（約 3 年間）		
<b>助成団体</b>	ジャパン・プラットフォーム、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）		
<b>事業実施の経緯</b>	2003 年のイラク戦争以降、約 45-50 万人のイラク難民がヨルダンに居住していると言われている。多くのイラク難民が祖国での経験やヨルダン国内での閉塞した状況から心の問題を抱えており、また、長期化する滞在によりイラク難民とヨルダン人コミュニティの間に相互共存や文化理解を促進する必要性が生じている。子どもや就学年齢を過ぎた大人についてもインフォーマル教育へのニーズが高い。		
<b>事業目的</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イラク難民およびヨルダン人に、精神科医の策定した心理社会的ケアプログラムを通じて、心の傷に向き合い、平和と共存についてグループで考える機会を提供する。</li> <li>2. 精神科医等による個別カウンセリングを、必要とする住民に提供する。</li> <li>3. イラク難民の子どもと大人にインフォーマルな英語教育の機会を提供する。</li> </ol>		
<b>裨益者</b>	心理社会的ケア：第 1 プログラム 直接裨益 271 名 間接裨益 2,180 名 第 2 プログラム 直接裨益 922 名、間接裨益 2,904 名 カウンセリング：399 名（精神科医） 869 名（ソーシャルワーカー） 英語教育：子ども向け 156 名、大人向け 99 名		
<b>事業内容</b>	心理社会的ケア、 カウンセリング、 英語教育		
<b>具体的な事業活動と成果</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理社会的ケア：プログラムの事前と事後に心理テストを実施し、成果の確認を行った。（添付資料 参照）</li> <li>第 1 プログラム：描画、クレイモデル、スポーツ、ドラマの要素で構成された精神科医が策定したプログラムであり、10-15 歳の年代を対象に 2 ヶ月半を 4 フェーズ実施した。</li> <li>第 2 プログラム：第 1 プログラムの発展型として演劇・英語劇・音楽・ダンス・絵本のクラスを開催し、ヨルダン人コミュニティとイラク難民の共存や平和について地域社会の理解を促進した。</li> </ol>	 <p>ザルカのセンターにて心理社会的ケアプログラム参加者をファシリテートする NICCO スタッフとインターン。</p>	

	<p>2. カウンセリング:1名の精神科医と2名のソーシャルワーカーにより、全年齢を対象としてグループ療法でケアしきれないケースについて、きめ細かく個別カウンセリングを実施した。(添付資料 参照)</p> <p>3. 英語教育:学校の授業について行けない子どもおよび第3国定住や就職を目指す大人のイラク人に対し経験豊富な英語教師による授業を提供した。</p>	 <p>心理社会的ケア第1プログラムの演劇において「戦争と平和」をテーマに演じるイラク人とヨルダン人参加者。</p>
<p><b>【事業費】実施額 72,240,615 円 ( 予算額 72,659,826 円 )</b></p>		

## D2 . ミャンマーサイクロン被災者支援

収支計算書「ミャンマーサイクロン」

事業名	ミャンマーサイクロン被災者支援	国・地域	ミャンマー連邦エヤワディ管区
事業期間	平成 20 年 ( 2008 年 ) 5 月 29 日から 8 月 24 日 ( 86 日間 )		
助成団体	ジャパン・プラットフォーム		
事業実施の経緯	2008 年 5 月 3 日に発生したミャンマーでのサイクロン被災者の緊急支援のため、ジャパン・プラットフォーム加盟 3 団体 ( JEN, NICCO, Peace Winds Japan ) にて合同調査を実施した結果、ミャンマー商工会議所連盟の協力を得て、3 団体が共同でそれぞれシェルター、医療、物資配布の分野にて支援を実施することとなった。		
事業目的	被害の大きいエヤワディ川デルタ地帯に位置するエヤワディ管区のデディエ、ピヤポン、ボガレー、ラプタの 4 地区の被災者に対して、巡回医療サービスの提供と医療関連物資の配布を行い、医療分野での最低限の生活の保障に寄与する。		
裨益者	モバイルクリニック診察者数 : 18,213 人、物資配布者数 : 20,047 世帯 ( 約 80,188 人 )		
事業内容	ミャンマー人の医師、看護師による医療団が、被災者に巡回医療サービスを提供、マラリア対策用蚊帳、蚊取り線香、一般薬等の医療関連物資を被災者に配布		
具体的な事業活動と成果	<p>1. ミャンマー商工会議所連盟及びミャンマー医師会と協力し、ミャンマー人の医師 5 名、看護師 4 名、医療アシスタント 7 名の計 16 名からなる医療チームを 2 チーム編成し、被災後に医療サービスが提供されていないデルタ地帯の村々をボート等で回り、診療活動を行った。首都ヤンゴンにおいては日本人の医師、看護師が技術的な指導と医薬品の在庫管理を行い、被災地のモニタリングを数度</p>	 <p>巡回診療を視察する日本人看護師。</p>	

	<p>に渡って行った。1日平均約200人を診察し、合計18,213人に医療サービスを提供した。</p> <p>2. ミャンマー商工会議所連盟と協力し、マラリア対策用蚊帳と蚊取り線香、家庭用一般薬（1週間分の風邪薬とビタミン剤等）を、被災者に配布した。配布に際しては、現地行政より調整を受けた対象の村のニーズ及び村側の提出した被災者リストについて当会雇用の職員が確認を行った上で、リストに従って物資を配布し、受け取った全世帯より署名を受領した。これによって、どの村のどの家族に物資を配布したか、確実に記録を残しつつ配布を行い、最終的に20,048世帯（約80,188人）に物資を届けることができた（巡回医療と配布物資の村毎の詳細は添付資料参照）。</p>	 <p>医療関連物資の配布の様子。</p>
<p><b>【事業費】 実施額 54,965,854 円（予算額 54,965,644 円）</b></p>		

### D3 . 中国四川地震被災者支援

収支計算書「中国四川地震」

<p><b>事業名</b></p>	<p>中国四川地震被災者支援</p>	<p><b>国・地域</b></p>	<p>中華人民共和国四川省綿陽市北川県 Chen Jia Ba（陳家坝）鎮</p>
<p><b>事業期間</b></p>	<p>平成20年（2008年）10月31日から平成21年（2009年）1月13日（75日間）</p>		
<p><b>助成団体</b></p>	<p>ジャパン・プラットフォーム</p>		
<p><b>事業実施の経緯</b></p>	<p>2008年5月12日に発生した四川大地震の被災者に対し衣類や寝具などの越冬用物資の確保を支援するため、9月2日～20日の計19日間、四川省にて初動調査を実施して被災地のニーズを確認した後、11月2日より派遣スタッフが中国にて活動を開始。現地行政・連携団体と協力して被災地へ越冬支援物資を配布した。</p>		
<p><b>事業目的</b></p>	<p>四川大地震の被災者に対し越冬支援物資の配布を通じて、家屋の損壊被害や収入の減少により困難な状況にある山岳部の被災者の越冬を支援する。</p>		
<p><b>裨益者</b></p>	<p>Chen Jia Ba（陳家坝）鎮18村の全住民12,443名</p>		
<p><b>事業内容</b></p>	<p>四川大地震で被災した、山岳部に住む被災者に対する越冬支援物資の供与</p>		

<p><b>具体的な事業活動と成果</b></p>	<p>四川省国際民間組織合作促進会（四川民促会）と提携し、現地行政の協力の下、四川大地震の「極度重災区」でありながら山間部に位置するため支援の手の及びにくい四川省綿陽市北川県の Chen Jia Ba 鎮 18 村の全住民 12,443 名に越冬支援物資を配布した。物資配布は 2008 年 12 月 26 日と 2009 年 1 月 9 日の 2 回に分けて行われ、第 1 回配布では現地マスコミも取材に訪れ、贈呈式が執り行われた。配布に当たっては、行政が提出したリストに従い、成人男性、成人女性、中高生男子、中高生女子、小学生男子、小学生女子、幼稚園男児、幼稚園女児と、年齢と性別に応じて 8 種類の防寒着パッケージを作成し、防寒用上着、ズボン、防寒用下着、羊毛靴下をサイズと性別に応じて配布することで、きめ細かくニーズに応じて物資を配布することができた（添付資料）。</p> <p>物資配布では当会スタッフによる配布状況のモニタリングと物資受領者リストの確認により進捗を確認し、事業期間中に入手できなかった僻村の物資受領者リストの保管と物資配布のフォローアップ等を現地行政に依頼して事業を終了した。</p>	
		<p>第 1 回物資配布に先がけ、県や鎮の幹部、住民が参加した配布物資贈呈式を実施した。</p>
		
		<p>衣料品等を受領して笑顔を見せる女性。</p>
<p><b>【事業費】実施額 44,808,568 円（予算額 44,809,067 円）</b></p>		

#### D4 . ガザ人道支援

収支計算書「ガザ人道支援」

<p><b>事業名</b></p>	<p>ガザ人道支援</p>	<p><b>国・地域</b></p>	<p>パレスチナ暫定自治区ガザ地区</p>
<p><b>事業期間</b></p>	<p>平成 21 年（2009 年）2 月 5 日から 3 月 19 日（44 日間）</p>		
<p><b>助成団体</b></p>	<p>ジャパン・プラットフォーム</p>		
<p><b>事業実施の経緯</b></p>	<p>ガザ地区では、2008 年 12 月 19 日より約 1 ヶ月間に渡ってイスラエル軍とハマスによる戦闘が続き、2009 年 1 月 23 日に日本国外務省が公表した情報によると、この戦闘により、パレスチナ人 1,314 名の死者、5,300 名以上の負傷者が発生した。この人道危機に対して、同年 2 月 5 日より現地にスタッフ 3 名及び日本人医師 1 名を派遣し緊急の調査を実施した上で、引き続き緊急支援活動を展開した。</p>		

<b>事業目的</b>	援助団体からの支援が十分に行き届いていない被災住民を対象に緊急物資を供与することで、被災住民の最低限の生活を確保する。																																			
<b>裨益者</b>	家屋が全半壊した 2,200 世帯及び障がい者 1,400 人																																			
<b>事業内容</b>	被災地における緊急支援物資の供与、 障がい者施設への医薬品及びおむつの供与																																			
<b>具体的な事業活動と成果</b>	<p>1. 緊急支援物資の供与</p> <p>現地 NGO と協働で、4 地区（ガザ市 2 地区、ラファ市 2 地区）で家屋が全半壊した世帯を対象に、各地区のコミュニティ・リーダーの統制の下、表 1 に示すように、食糧・毛布、水タンク、台所用品等の物資を配布した。</p> <p>また、子ども服の材料となる布生地やボタンなどを洋裁に取り組み現地のチャリティ団体に寄贈することで、子どもに衣料品を提供した。</p> <p>なお、食糧（お菓子）の配布に際し、現地の子どもたちと折り鶴づくりによりふれあいの機会を設けることで、子どもたちの心のケアにも配慮した。</p> <p>2. 障がい者に対する緊急支援</p> <p>現地 NGO と協働で、ラファ市に位置する障がい者支援施設を対象に、基礎的医薬品及びおむつ 1,400 人分（5,600 箱）を供与した。</p>	<p style="text-align: right;">（世帯）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地区名</th> <th colspan="2">ガザ市</th> <th colspan="2">ラファ市</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>トゥワム</th> <th>ザイトウン</th> <th>アルシュューカ</th> <th>テルアルスルタン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食糧</td> <td>600</td> <td>600</td> <td>800</td> <td>200</td> <td>2,200</td> </tr> <tr> <td>毛布</td> <td>600</td> <td>600</td> <td>800</td> <td>200</td> <td>2,200</td> </tr> <tr> <td>台所用品</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>400</td> <td>200</td> <td>1,200</td> </tr> <tr> <td>水タンク</td> <td>150</td> <td>150</td> <td>300</td> <td>-</td> <td>600</td> </tr> </tbody> </table> <p>表 1：緊急支援物資の供与世帯数。</p>  <p>障がい者施設に供与したおむつの前で（同施設代表、現地 NGO スタッフ及び NICCO 職員 2 名）</p>	地区名	ガザ市		ラファ市		計	トゥワム	ザイトウン	アルシュューカ	テルアルスルタン	食糧	600	600	800	200	2,200	毛布	600	600	800	200	2,200	台所用品	300	300	400	200	1,200	水タンク	150	150	300	-	600
		地区名		ガザ市		ラファ市			計																											
トゥワム	ザイトウン		アルシュューカ	テルアルスルタン																																
食糧	600	600	800	200	2,200																															
毛布	600	600	800	200	2,200																															
台所用品	300	300	400	200	1,200																															
水タンク	150	150	300	-	600																															
<b>【事業費】実施額 30,517,439 円（予算額 31,232,854 円）</b>																																				

## E.調査・評価事業

### E1 . 調査・評価

収支計算書「調査・評価」

<b>事業名</b>	調査・評価	<b>国・地域</b>	日本国内及び海外事業地
<b>事業期間</b>	平成 12 年度から継続		
<b>助成団体</b>	ジャパン・プラットフォーム		
<b>事業目的</b>	今後の案件形成のための調査及び実施案件の評価を実施		
<b>裨益者</b>			
<b>事業内容</b>	新たな案件形成のため、日本国内及び途上国に職員を派遣し、行政、国際機関、住民への聞き取りや、事業予定地の現状の調査を実施する。また、過去に実施した事業について		

	て、事業地を訪問してその後の状況を確認し、モニタリングと評価を行う。	
<b>具体的な事業活動と成果</b>	<p>1. ミャンマーサイクロン被災者支援のための調査</p> <p>5月3日のミャンマーでのサイクロンによる大規模な被害発生に伴い、被害の実態と支援の可能性について、ジャパン・プラットフォーム加盟 NGO2 団体と合同調査を実施し、日本人職員を現地に派遣の上で関係諸機関、現地商工会議所、被災者等に聞き取りを行い、本年度のミャンマーサイクロン被災者支援実施事業の開始に結びつけた。</p> <p>2. 中国四川地震被災者支援のための調査</p> <p>5月12日の中国四川省における大地震の被害発生後、中国政府や企業等により物資及びインフラ面での大規模な支援が行われたが、心理社会的な面での支援のニーズは未だに大きいとの現地政府からの情報を得て、ジャパン・プラットフォーム事務局及び加盟 NGO2 団体と合同で、日本人職員を現地に派遣の上で調査を実施した。その結果、2008年度と2009年度の中国四川地震被災者支援事業の実施に結びつくこととなった。</p> <p>3. ベトナムにおける診療所建設事業後モニタリング</p> <p>2000年度から2006年度にかけて実施されたベトナムラムドン県ラムハー郡における医療支援事業において建設された診療所と、供与された医療資機材の管理、使用状況について、事業完了後3年目の最終モニタリングを実施した。その結果、当会の事業による環境整備により、現地行政によって医療設備はさらに拡充され、供与の資機材も問題なく管理、使用されていることが確認された。</p>	 <p>ミャンマー社会福祉省を訪問しての NGO 活動に関する聞き取り。</p>  <p>支援したベトナムラムドン県の診療所に看護師への聞き取り。</p>
<b>【事業費】実施額 4,147,882 円（予算額 4,141,028 円）</b>		

## 国内事業

### A. 琵琶湖畔研修地における農林業研修と途上国モデルの構築

収支計算書「滋賀モデル農地」

<b>事業名</b>	琵琶湖畔研修地における農林業研修と途上国モデルの構築	<b>国・地域</b>	日本国内（滋賀県蒲生郡竜王町の研修地および京都本部）
<b>事業期間</b>	平成 16 年（2004 年）度から平成 23 年（2011 年）度（8 年間）		
<b>助成団体</b>	日本経団連自然保護基金、イオン環境財団、大成建設自然・歴史環境基金		
<b>事業目的</b>	環境保全とパーマカルチャーに基づく案件等実施のため、途上国に派遣される当会の人材に対して、途上国で応用可能な農林業技術の研修を実施し、派遣に際して必要な経験と技能を身につけさせる。		
<b>裨益者</b>	研修人数のべ約 1000 人		
<b>事業内容</b>	2008 年度より滋賀県蒲生郡竜王町に研修地を設置し、有機農業、パーマカルチャーに基づいた農林業等の研修をインターン及びボランティアに対して実施した。また京都本部において、OJT によって報告書作成、会計処理等、事業管理の実務研修を行った。		
<b>具体的な事業活動と成果</b>	<p>1．農地利用：専門家や地元農家の指導の下、有機農業やパーマカルチャーに基づく農作物栽培および農産物加工の実習を行った。</p> <p>2．各種実習・講習会開催：農業、環境、建築、生態系の専門家を招き、モデルファームにて定期的を開催した。</p> <p>3．絶滅危惧種および希少種の保護と観察：生態系調査および土壌調査、植生調査を実施し、合計 5 種の絶滅危惧種および希少種を観察。また調査方法についても研修を行った。</p> <p>4．国際理解教育：地元竜王町の小学校にて国際理解および環境についての特別授業を実施し、地域の国際化や環境保全に寄与した。</p> <p>5．JICA イラク南部湿地帯保全コース研修：JICA イラク人研修生によるモデルファームの視察を受け入れ、研修を実施した。</p> <p>6．事務処理の研修：京都本部におい</p>		<p>マラウィ事業地でエコサントイレ建設を監督した専門家の指導により、モデルファーム内にエコサントイレを建設する NICCO インターンとボランティア。</p>

	<p>て事業管理や広報に関する事務処理や、会計実務について実務訓練を行った。</p> <p>7. 派遣前の研修：イラン（1名）、ヨルダン（2名）、マラウィ（3名）のインターンの派遣に際して、必要な研修や準備を実施した。</p>	
<p><b>【事業費】 実施額 7,896,107 円（予算額 7,862,651 円）</b></p>		

## B. 広報と活動資金の獲得

収支計算書「広報と資金獲得」

事業名	広報と活動資金の獲得	国・地域	日本国内
事業目的	印刷物、ウェブサイト、報告会・パネル展示、講演、プレゼンテーション等による広報活動を行い、当会の活動についてより広い認知と積極的な支持者の拡大を図る。		
事業内容	広報用の印刷物やウェブコンテンツ、プレゼン資料を作成し、報告会、イベント、講演、勉強会、個別訪問等の機会を捉えて、当会の活動に関心を持つ個人、団体、企業等に対して、当会の活動やその意義について説明し、活動への理解と支援を訴えた。		
具体的な事業活動と成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>募金キャンペーンの実施 マラウィでのエコサントイレ建設と井戸建設資金集めのため、ウェブサイト等によりキャンペーンを実施した。</li> <li>印刷物の作成と配布 日本語及び英語版のプロシユアその他の広報物を作成し、DM、プレゼン資料として活用した。</li> <li>ウェブサイトにおける広報 当会ウェブサイト进行全面改訂し、よりわかりやすく、広い範囲の人々に活動を紹介すると共に、イーココロ、Yahoo!ボランティアのサイト上にて募金や活動紹介を行った。</li> <li>報告会の実施 京都府国際センター等主催の国際協力ステーションにてミャンマーサイクロン支援報告会を、またジャパン・</li> </ol>		<p>2008年10月に全面改定した当会ウェブサイト。 ( <a href="http://www.kyoto-nicco.org">http://www.kyoto-nicco.org</a> )</p>
			

	<p>プラットフォームと協力の上、大阪にてミャンマーサイクロンと中国四川地震支援報告会を実施した。</p> <p>5. パネル展示の実施 第22回京都チャリティ・ファンラン、国際協力ステーション、京都三条通ジャック、ワン・ワールド・フェスティバル、第19回チャリティ・オークション等の各会場で活動紹介パネルの展示を行った。</p> <p>6. 講演や訪問の受け入れ UNHCR主催CSRシンポジウム、京都光華女子大学、龍谷大学、岡山南ロータリークラブ、小学校1校等にて講演や講義を行った他、学生等個人の訪問を受け入れ、事業説明を行った。</p> <p>7. 企業との連携 CSRリンクアップ・フォーラム、京都CSR研究会への参加の他、個別に企業を訪問して連携や協力を図った。また企業OBよりボランティアとしての活動協力を得た。</p> <p>8. ヨルダン産有機オリーブオイルの紹介 ウェブサイト上や、報告会・パネル展示、イベント参加、企業訪問等の機会にヨルダンでの事業から生まれたオリーブオイルの紹介を行った。</p>	<p>2008年12月、大阪国際交流センターにて開催されたワン・ワールド・フェスティバルにて、NICCO職員、インターン、ボランティアがブースを出して活動を紹介した。</p>  <p>2009年3月、大丸京都店で開催されたチャリティ・オークション会場でのパネルによる事業紹介。</p>
<p><b>【事業費】実施額 5,530,523 円（予算額 5,529,692 円）</b></p>		

### C. 会員との連絡と交流

収支計算書「会員・支援者交流」

事業名	会員との連絡と交流	国・地域	日本国内
事業目的	当会の会員に対して会誌等により事業及び団体運営の報告を行い、会員としての支援を依頼することで、継続的な活動の実施を可能とする。		
事業内容	6月及び12月に会誌「リリーフ・アクション」を発行の上送付した他、イベント紹介の		

	<p>ダイレクトメール（DM）を送付し報告会やパネル展示の情報を提供することで、海外及び国内の活動や団体運営に対する報告を行った。また会費納入に伴う事務・会計処理や、会員からの要望・問い合わせ等に対応した。</p>	
<p><b>具体的な事業活動と成果</b></p>	<p>1.会誌「リリーフ・アクション」の発行 2008年6月に第31号、12月に第32号をそれぞれ3,500部発行し、会員・支援者に送付した。</p> <p>2.報告会・パネル展示の案内 2008年7月に開催された国際協力ステーションにおける報告会、2009年3月に行われた「第19回チャリティ・オークション」会場でのパネル展示についてDMにて案内を行い、会員を招待した。</p> <p>3.会費納入に関する事務と問い合わせへの対応 会費の自動引落としの制度を開始し、会員への案内を行った。また会費納入に関する事務・会計処理を行うと共に、会員からの質問や要望に対応した。</p>	<div data-bbox="1034 421 1401 929" data-label="Image"> </div> <p>会誌「リリーフ・アクション」第32号表紙</p>
<p><b>【事業費】 実施額 1,836,938 円（予算額 1,837,898 円）</b></p>		

以上

**マラウイにおける3事業  
2008年度ムワザマ地区講習会開催実績**

	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		2008年度合計		事業名
	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	
<b>農業関連 合計</b>	1,119	15	1,599	68	400	20	40	4	3,158	107	
ローカルシード、種子保存	120	3	749	18					869	21	マラウイPC
有機農法、パーマカルチャー、作付け指導、圃場整備	490	5	400	20	400	20	40	4	1,330	49	マラウイPC
小学校家庭菜園プログラム	480	6	450	30					930	36	マラウイ植林
有機農法の村外研修	29	1							29	1	マラウイPC
<b>保健、衛生関連 合計</b>	628	19	263	18	259	20	1,165	13	2,315	70	
エコサントイレ保健衛生(モニタリング)	333	8	173	12	114	12			620	32	マラウイ植林
保健委員会(VHC)トレーニング	95	5			100	5			195	10	マラウイ植林
小学校保健プログラム	200	6	90	6	45	3	45	3	380	18	マラウイ植林
マラリア対策							1,120	10	1,120	10	マラウイ医療
<b>女性グループ 合計</b>	0	0	1,710	36	63	2	0	0	1,773	38	
女性グループ形成と運営			1,710	36					1,710	36	マラウイ植林
料理教室(モリンガ)					63	2			63	2	マラウイ植林
<b>リーダー研修 合計</b>	300	9	75	2	205	6	425	9	1,005	26	
保健衛生委員会(VHC)リーダー研修			35	1					35	1	マラウイ植林
農業委員会リーダー研修							40	4	40	4	マラウイPC
村内委員会リーダー研修	100	2							100	2	マラウイPC
女性グループリーダー研修					40	1			40	1	マラウイ植林
井戸管理委員会					165	5	385	5	550	10	マラウイ植林
小学校の公衆衛生委員会、PTA、教員	200	7	40	1					240	8	マラウイ植林
<b>四半期合計</b>	2,047	43	3,647	124	927	48	1,630	26	8,251	241	

(注)全ての講習会について、現地職員の人件費や車両燃料費の一部はマラウイPC事業に計上されている。

**ITと製版職業訓練事業  
マシャッド職業訓練校2008年度受講者・卒業者数一覧**

開講コース		第一ターム		第二ターム		第三ターム		第四ターム		卒業者 コース合計	
		受講者数	卒業者数	受講者数	卒業者数	受講者数	卒業者数	受講者数	卒業者数		
<b>上級特別コース</b>											
N連事業	ハードウェア	ハードウェア2			15	12	15	15	17	16	43
	商業印刷 (IOP1及びIOP2)		7	7	13	10	12	12	11	11	40
	英語上級	日常英会話 (IDC)	10	10	8	8	13	12	15	13	43
語彙・文法・翻訳		13	10	8	8			8	7	25	
自己資金	ネットワーク	ネットワーク3	11	11					10	7	18
		ネットワーク4	10	10	9	9			9	8	27
	映像処理	映像処理1			19	13	9	9			22
		映像処理2	11	11			6	6			17
	Web	Flash			11	11					11
	プログラミング	VB (Visual Basic)			16	6					6
	会計	会計							17	16	16
<b>基礎コース</b>											
自己資金	オフィス (ICDL)	オフィス1	16	11	81	81			17	12	104
		オフィス2			15	4					4
	グラフィック		24	20	19	15			15	15	50
	ハードウェア	ハードウェア1	14	7	19	13	17	17			37
	ネットワーク	ネットワーク1	10	9	12	11					20
		ネットワーク2	8	8			8	8			16
	英語	英語1	16	11	74	42	17	11	9	9	73
英語2				20	11	12	9	9	8	28	
<b>ターム合計</b>		<b>150</b>	<b>125</b>	<b>339</b>	<b>254</b>	<b>109</b>	<b>99</b>	<b>137</b>	<b>122</b>	<b>600</b>	

\*斜線はそのタームに未開講。

**ITと製版職業訓練事業**  
**アフガニスタンからの招聘講師によるワークショップ一覧**

No	氏名	役職	日時	講義内容	参加者数
1	Ms. Nazari	FONONスタッフ	2008/6/17	1) 講師の帰還経験・帰還後の生活について 2) FONONの帰還支援事業について 3) アフガニスタン女性の就職状況について	73名 (午前・午後合計)
2	Mr. Rahmani & Mr. Usmani	RSDOディレクター・ 同スタッフ	2008/10/13	1) RSDOの事業について(紹介) 2) アフガニスタンの歴史及び現状について 3) アフガニスタンでの就職状況について	62名 (午前・午後合計)
3	Ms. Sara Sajjadi	元AREU研究補助員、 NICCO訓練校卒業生	2008/12/21,2 3,24	講師の経験をもとにした参加型WSを実施 1) 自分自身を知る - まず必要なこと 2) 帰還に向けての挑戦 - 問題や不安は何? 3) 帰還のために - 問題解決の方法とは? 4) 就職活動に際して必要な準備は?	100名 (3日間合計)
4	Mr. Jaghoori	職業訓練校 マネージャー	2008/12/29	1) アフガニスタンの現状について 2) 帰還後の元難民の成功事例紹介 3) 帰還後成功するために必要なこと	30名
5	Mr. Sayed Huseen	労働社会省ヘラート ディレクター	2009/1/3	1) アフガニスタンの現状について 2) アフガニスタンの変化と改善点について 3) アフガニスタンの雇用状況(法律、制度など)	44名
6	Mr. Alizade	TVプロデューサー NICCO訓練校卒業生	2009/1/18	1) アフガニスタンへの帰還に際して困難な点 2) アフガニスタンへ帰還することの利点 3) 質疑応答	36名
7	Mr. Niazi	ACBARヘラート regional manager	2009/2/1	参加者からの質疑応答をメインにしたWSを実施 1) ACBARの事業内容について 2) 就職活動をする上でのアドバイス 3) 質疑応答	59名
合計					404名

**マラウイにおける感染症総合対策事業  
2008年度 マレンガチャンジ地区講習会開催実績**

	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		2008年度合計		事業名
	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	
<b>農業関連</b>	<b>合計</b>										
土壌改良	0	0	0	0	0	0	250	13	250	13	
有機農法、パーマカルチャー、作付け指導、圃場整備							70	7	70	7	マラウイ医療
村外研修							150	5	150	5	マラウイ医療
村外研修							30	1	30	1	マラウイ医療
<b>保健、衛生関連</b>	<b>合計</b>										
エコサントイレ建設	0	0	0	0	256	17	2,169	8	2,425	25	
保健委員会(VHC)トレーニング					196	14			196	14	マラウイ医療
マラリア対策					60	3	2,103	5	2,163	8	マラウイ医療
<b>リーダー研修</b>	<b>合計</b>										
農業委員会リーダー研修	0	0	0	0	580	22	752	21	1,332	43	
県内の行政指導者、農業普及員研修					60	2	205	5	265	7	マラウイ医療
村内委員会リーダー研修					355	15			355	15	マラウイ医療
井戸管理委員会					165	5	390	10	555	15	マラウイ医療
<b>四半期合計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>836</b>	<b>39</b>	<b>3,171</b>	<b>42</b>	<b>4,007</b>	<b>81</b>	

## ヨルダンにおける女性グループの能力開発による貧困削減事業

## ワークショップ・トレーニング実施実績

	実施日	カテゴリー	タイトル	講師	内容	参加者数
1	11月20日	手工芸	手工芸(刺繍小物-1)	Mrs. Wedad	オリエンテーション、伝統刺繍の基礎情報	9
2	11月24日	キャパビル	キャパシティビルディング	-	手工芸品の市場調査	11
3	11月25日	手工芸	手工芸(刺繍小物-2)	Mrs. Wedad	手工芸品(伝統刺繍を施した小物)製作	9
4	12月2日	手工芸	手工芸(刺繍小物-3)		手工芸品(伝統刺繍を施した小物)製作	7
5	12月16日	手工芸	手工芸(刺繍小物-4)		手工芸品(伝統刺繍を施した小物)製作	10
6	12月30日	手工芸	手工芸(刺繍小物-5)		手工芸品(伝統刺繍を施した小物)製作、生産チーム分け	10
7	1月6日	手工芸	手工芸(刺繍小物-6)		手工芸品(伝統刺繍を施した小物)製作	9
8	1月13日	キャパビル	キャパシティビルディング	Otsuka/NICCOD	商品開発とマーケティング	10
9	1月18日	キャパビル	キャパシティビルディング		商品開発と生産システムの構築	11
10	1月26日	キャパビル	キャパシティビルディング		商品開発と生産システムの構築	11
11	2月9日	養蜂	養蜂(第1日)	Eng. Mahmoud Abu Shwiemeh/MoA	養蜂の経済的インパクトとミツバチの種類、群生と役割	13
12	2月10日	養蜂	養蜂(第2日)		養蜂箱と飼育器具、ミツバチ飼養場、餌場の準備	19
13	2月11日	養蜂	養蜂(第3日)		ミツバチの群生の検査、ミツバチの繁殖	16
14	2月12日	養蜂	養蜂(第4日)		養蜂箱の管理方法、採蜜・保管方法	19
15	2月15日	建築	土囊建築	Eng. Ezaki/NICCOD	土囊建築の基礎知識、実習	37
16	2月16日	建築	土囊建築		実習	16
17	2月17日	植林	植林(第1日)	Eng. Samia Shneikat/MoA	ハーブの利用法と効用	22
18	2月18日	植林	植林(第2日)		ハーブの栽培と植林方法(実習)	22
19	2月26日	植林	植林(第3日)	Eng. Diana Masadeh/MoA	植林/有機農業	13
20	3月15日	手工芸	手工芸(バスケット-1)	Mrs. Nibal	わら製トレーの製作	11
21	3月16日	手工芸	手工芸(バスケット-2)		わら製かご製作	11
22	3月17日	手工芸	手工芸(バスケット-3)		わら製バスケットの製作	11
23	3月19日	手工芸	手工芸(バスケット-4)		わら製バスケットの製作	9
24	3月23日	養蜂	養蜂(第5日)	Eng. Mahmoud Abu Shwiemeh/MoA	養蜂箱の管理方法(実習)	17
25	3月30日	植林	植林/PC	Tareq Smadi/MoA	パーマカルチャー/環境保全型節水農法(於:ブルマPC試験農場)	9
参加者数合計(延べ):						342

ヨルダンにおけるイラク難民支援事業  
 心理社会的ケアワークショップにおける心理テスト結果  
 (JPF 第2期事業、2008/4/2-2008/11/8)

報告者：桑山紀彦

(社)日本国際民間協力会 スーパーバイザー、精神科医

【総合結果】

3種の心理テストに関して事前、事後の比較により、すべての項目に関して過半数以上の参加者に対して何らかの改善傾向が見られた。また、項目によっては9割を超える参加者に改善傾向が認められた。

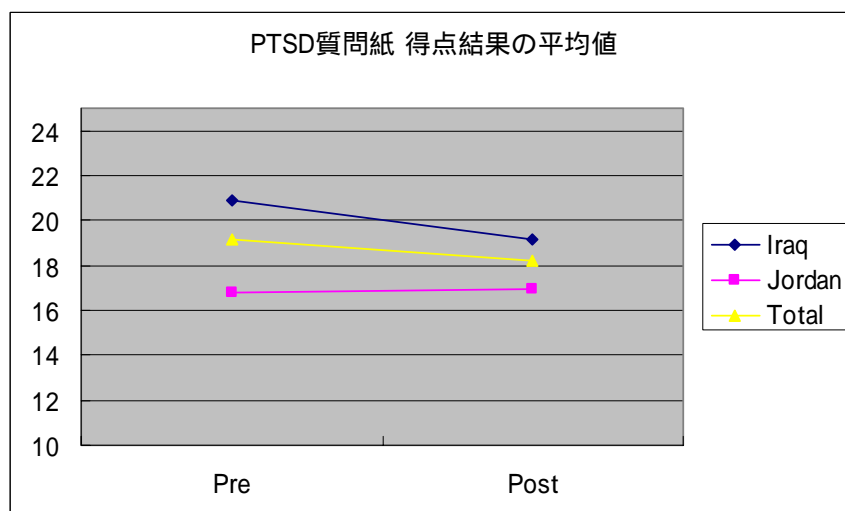
【個別テスト結果】

1. PTSD 質問紙

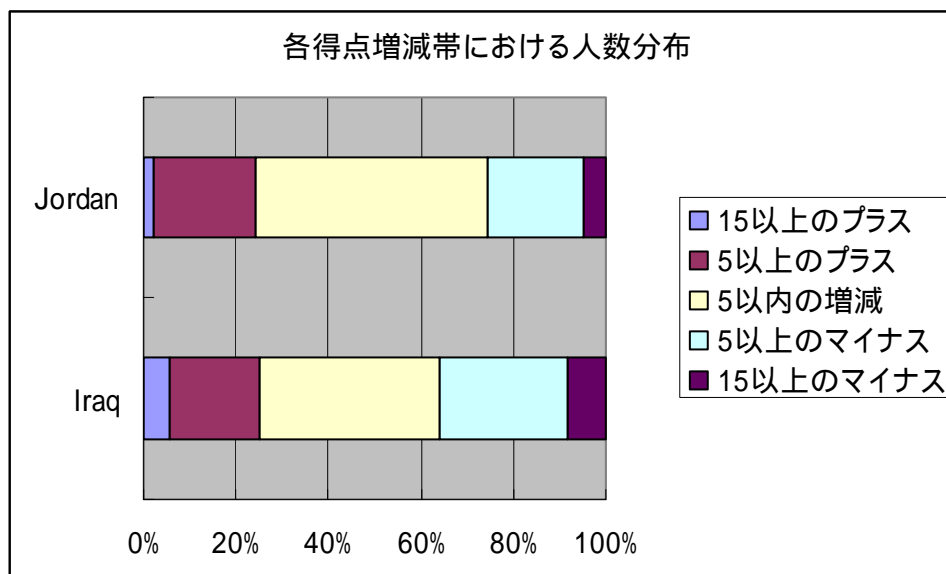
- \* PTSD 質問紙：ハーバード大学のリチャード・F・モリカ博士らが開発したトラウマ質問紙を、桑山紀彦（精神科医、トラウマ精神医学、難民心理学、心理社会的ケア専門家）が、イラク避難民およびヨルダン人貧困層の状況を考慮してヨルダン版として作成。NICCO においてはスリランカ津波災害、パキスタン北部震災、ジャワ島地震と継続して使用されている。高得点ほど、PTSD に罹患している可能性が高い。

PTSD質問紙(Jordan) (簡易15問)				
生活に関する質問	とてもある(3点)	ほどほどにある(2点)	滅多にない(1点)	ぜんぜんない(0点)
1 いまの生活に不満を感じていますか？				
2 学校は楽しくないですか？				
3 仲間(友達)と一緒にいても楽しくないですか？				
侵入に関する質問				
4 夜悪い夢を見ることがありますか？				
5 紛争や攻撃、逃げた時のことを突然思い出すことがありますか？				
6 大きい物音にびっくりすることがありますか？				
回避に関する質問				
7 みんなと紛争や攻撃、逃げた時のことを話すのが嫌ですか？				
8 この地域に暮らすのは嫌ですか？				
9 誰もいないところへ行きたいと思いませんか？				
過覚醒に関する質問				
10 夜眠られないことがありますか？				
11 前よりもトイレに行く回数が増えましたか？				
12 突然胸がどきどきすることがありますか？				
抑うつ、不安に関する質問				
13 食欲がなくなることがありますか？				
14 気持ちが沈むことがありますか？				
15 将来、どうなるか不安ですか？				

PTSD 質問紙結果



## ヨルダンにおけるイラク難民支援事業



## &lt; 結果 &gt;

平均得点が減少していることからヨルダン人、イラク人共に改善傾向が認められたが、依然双方に15を超える高い平均得点が確認された。イラク人の平均得点に減少が見られるものの、事前テストに関しては第1期事業時と比較して高い値を示しており、長期の避難民生活により、イラク人精神状態がより悪化傾向にあることが想像される。

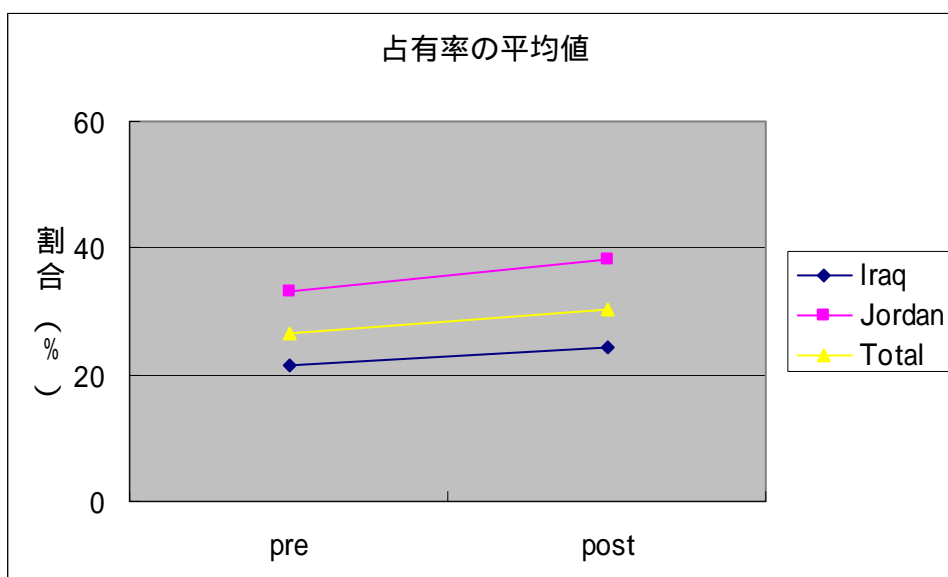
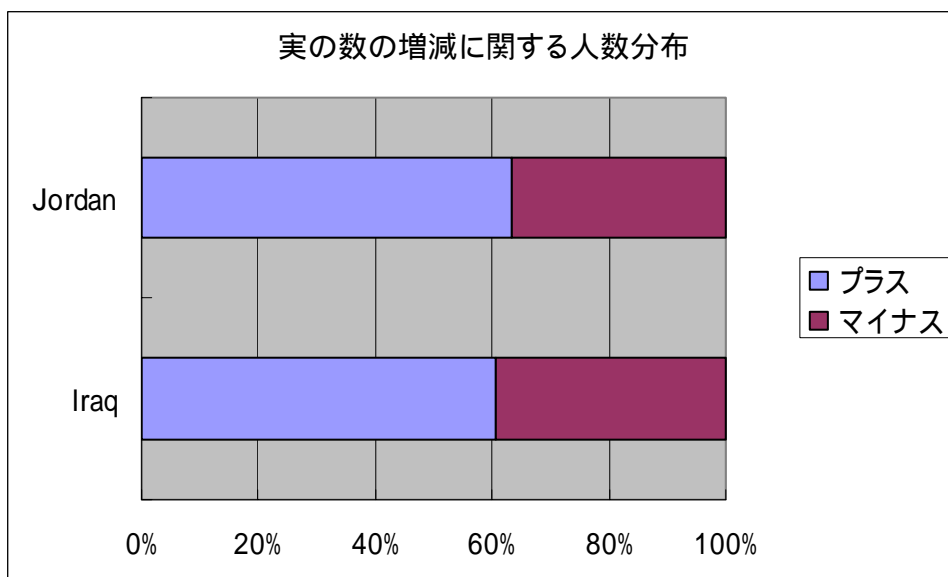
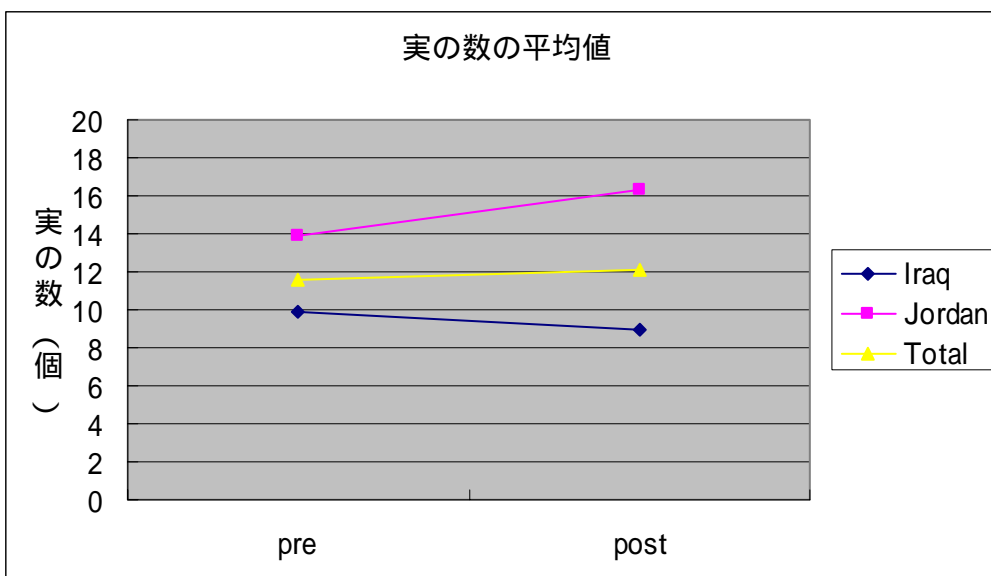
各得点増減帯における人数分布においては、イラク人約4割の参加者について、ヨルダン人と比較して大きな改善が見られ、現状維持を含めれば8割近くの参加者に効果が認められた。

平均値のグラフ及び得点増減の人数分布グラフのどちらからも、イラク人に対してより大きな改善効果が認められた。要因としては戦争トラウマを持つ可能性のあるイラク人を主な対象としたプログラムのため、彼らに対してより効果的に作用したと考えられる。

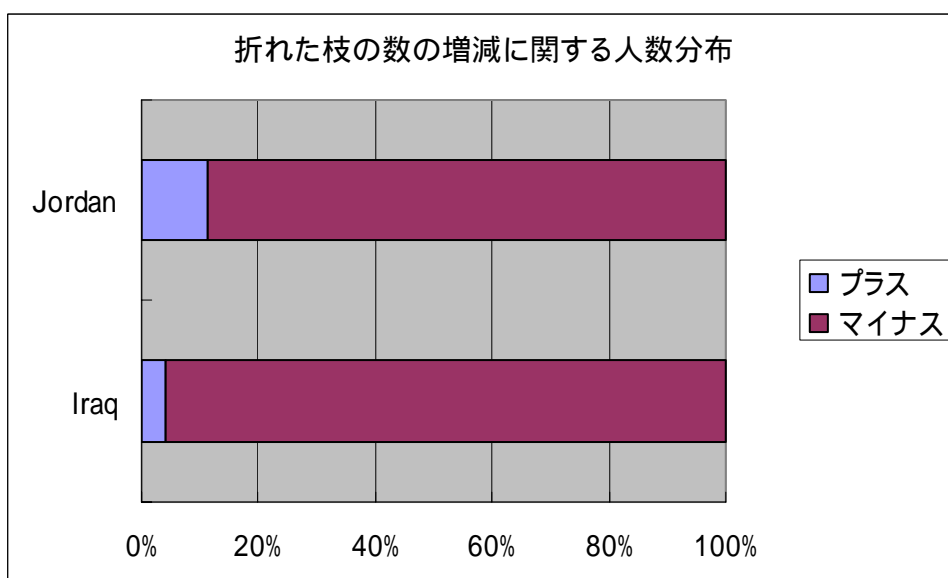
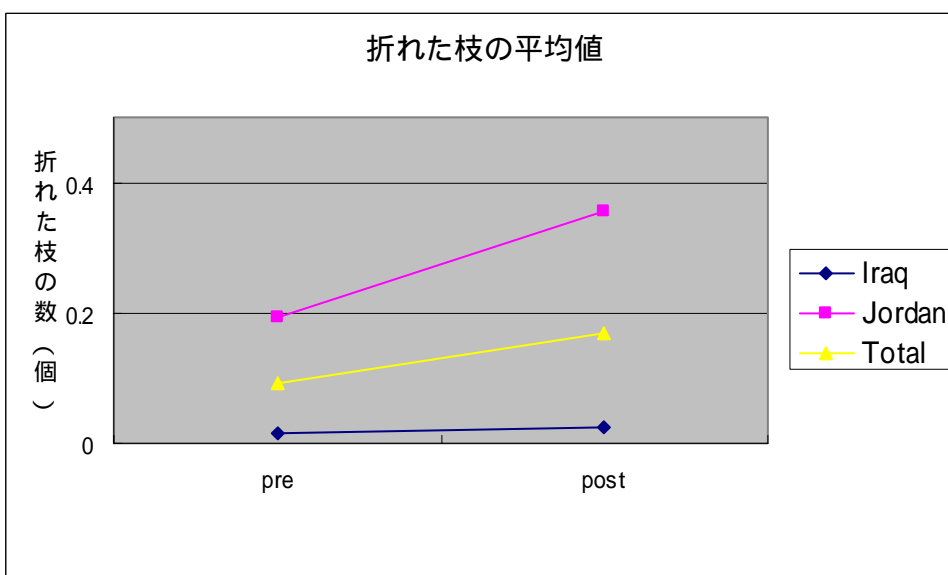
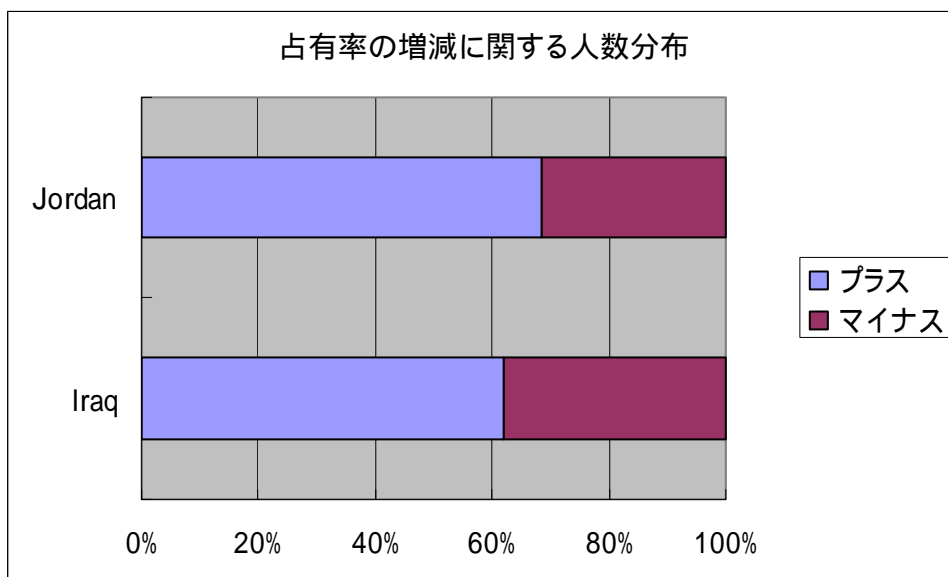
## 2. バウムテスト

\*バウムテスト(非言語的アプローチ): 1枚の白紙に描かれた木の絵を分析する投影型検査法。「1本の実のなる樹を描いてください」の教示の下に行われる。実の数や占有面積などから、内的なエネルギー状態、精神的な落ち着き度合い、夢や希望の保有状態等を分析する。

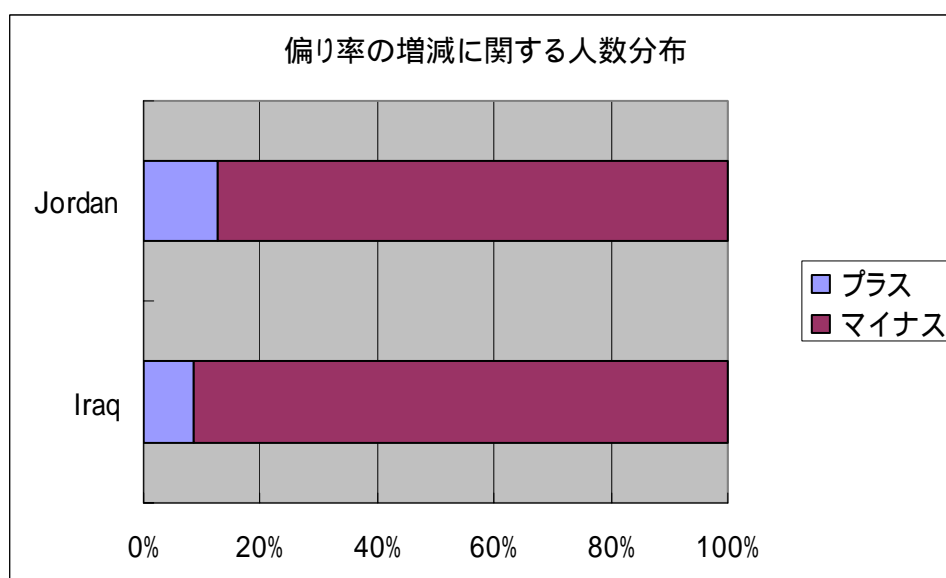
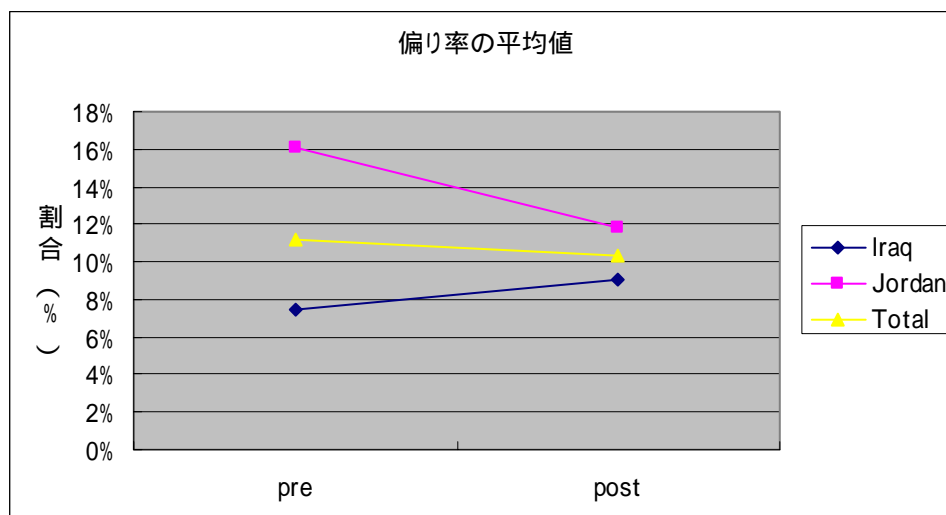
ヨルダンにおけるイラク難民支援事業  
バウムテスト結果



ヨルダンにおけるイラク難民支援事業



## ヨルダンにおけるイラク難民支援事業



## &lt; 結果 &gt;

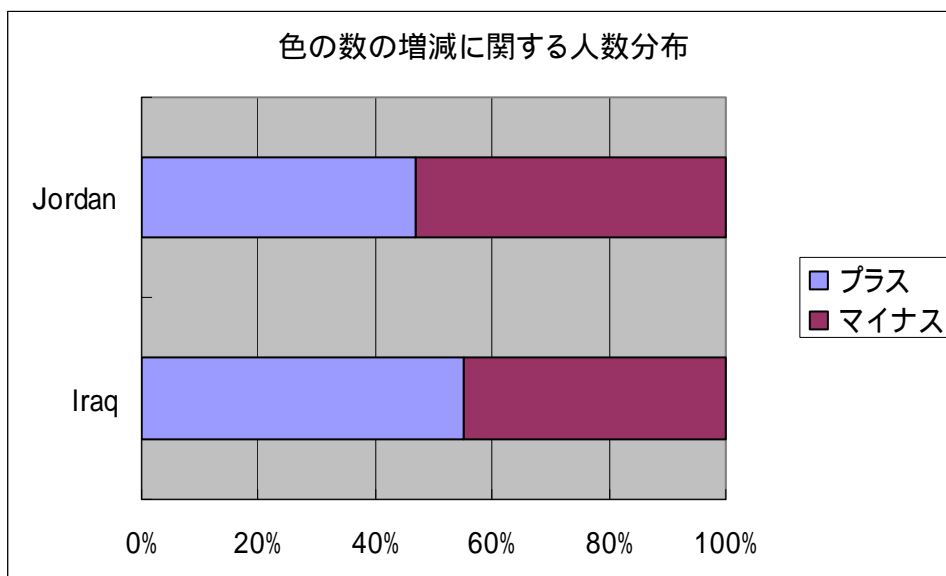
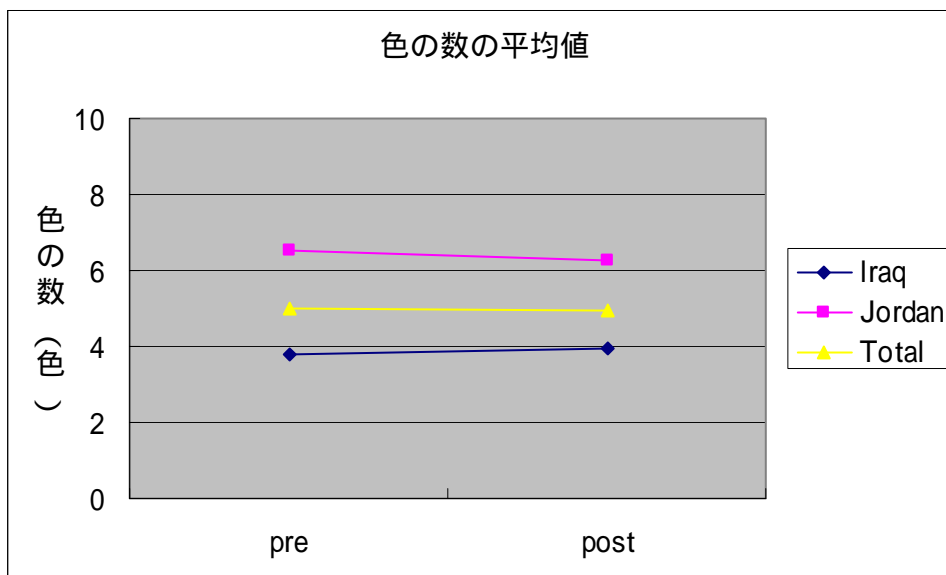
「夢や希望の数」を表す「実の数」、心のエネルギー量を示す「描画の含有率」、トラウマや PTSD の存在を示唆する「折れた枝」の数については 6 割以上、「心のアンバランスさ」を示す「偏り率」については約 9 割のイラク人、ヨルダン人に対して改善傾向が見られた。全体の平均値を示すグラフからは上述の項目に関して改善傾向が読み取れないが、これは一部のイラク人参加者が極端な悪化傾向を示し、平均スコアに大きな影響を与えたことによる。(特に顕著なのが「偏り率」であり、9 割に改善傾向の見られるにも関わらずイラク人の平均値は大きく下がっている。) イラク人へのヒアリングから、ヨルダン国内における就労不許可に起因するストレスが根深いことが察せられ、時間の経過とともに、精神面へ悪影響を及ぼしている。両親のストレスや無気力感から、家庭内においてなんらかの精神的なストレスに曝されていることが想像される。また、実際に両親からの直接的な虐待にあっていた参加者も複数確認されている。

ヨルダンにおけるイラク難民支援事業

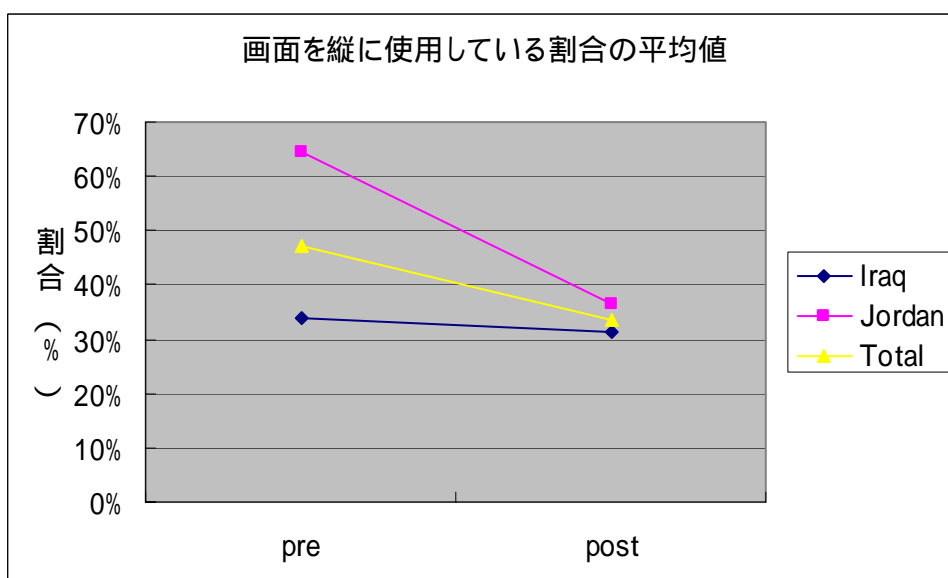
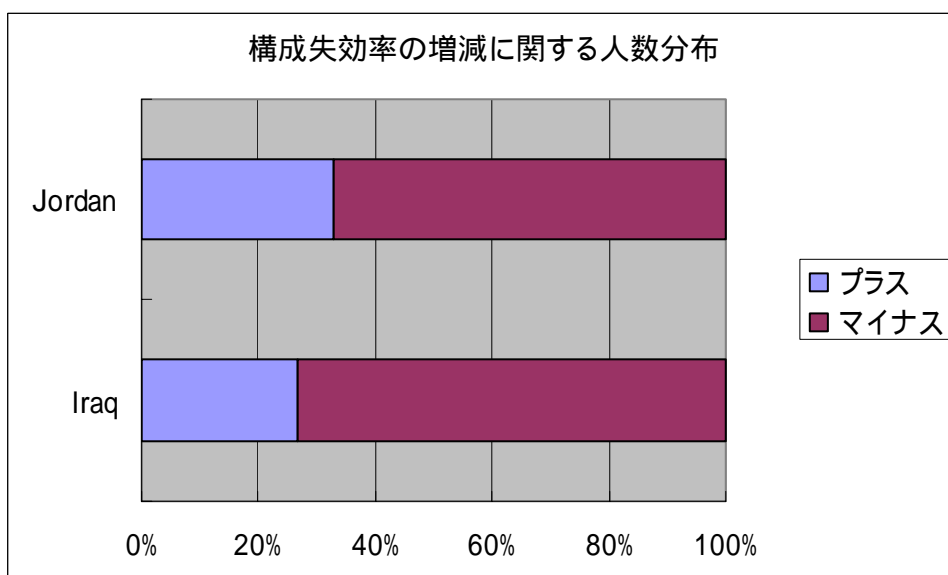
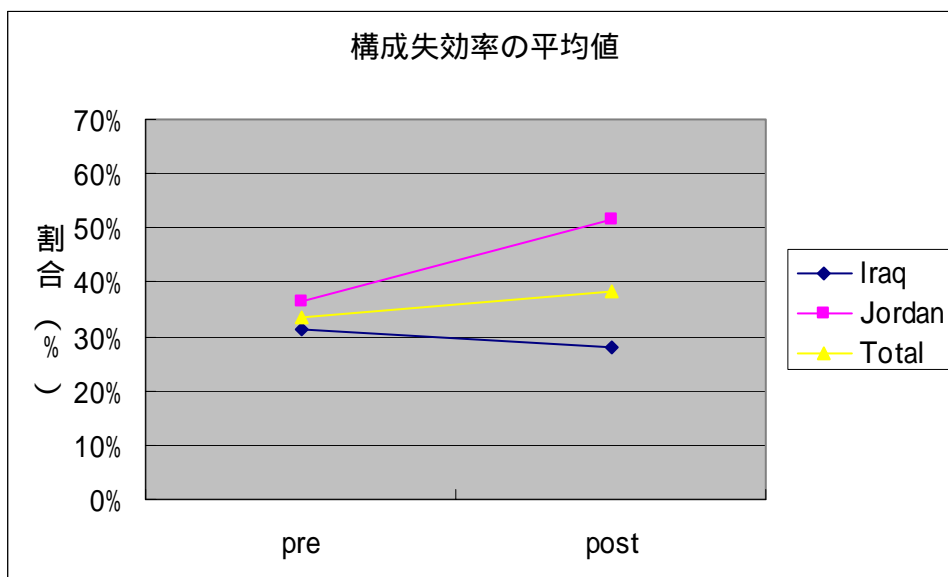
3. 風景構成法(landscape Montague Technique)

\*風景構成法(非言語的アプローチ): 1枚の白紙に「川、山、田、道、家、人、樹、花、動物、石」を描いて風景を構成させる。最後は「何でも好きなもの」を足して12色で彩色を指示する。内面にある障害や言語化されていない意識の動向、家族性、生産性、ユーモアや心の余裕などを分析する。

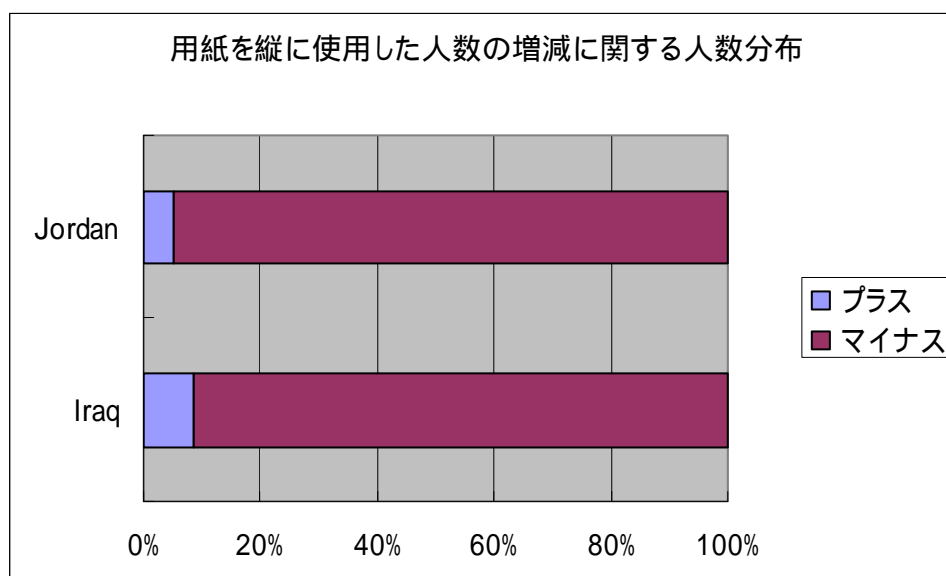
風景構成法結果



ヨルダンにおけるイラク難民支援事業



## ヨルダンにおけるイラク難民支援事業



## &lt; 結果 &gt;

色彩数に関してはイラク人、ヨルダン人共に約 5 割の参加者に対して改善傾向が見られた一方、平均値に関しては大きな差異は認められず、第 1 期に比べその数値が低いことが確認された。

また構成失効率に関しても約 7 割の参加者に改善傾向が認められたのに反して、平均値のグラフでは急激な上昇が確認された。前述のバウムテストと同様に一部参加者に極端な悪化傾向が見られたことが、平均スコアに大きな影響を与えたと推察される。

しかし色彩数及び構成執行率の悪化について個別のテストを分析したところ、第 2 プログラム参加者の急激な増加により、風景構成法の実施時間を十分に確保できないケースがあったことも要因として考えられる。より正確な分析結果を得るためには、現状の参加人数や実施時間を考慮した心理テスト実施方法に改善する必要がある。

描画の構図については、第 1 期結果と同様、「縦構図」から「横構図」に変わったケースが多々見られた。いわゆる「視線の移動と広がり」を示すものであり、心理社会的ケアが一人一人の視野の広がりや、関わりの拡大につながっていることを示唆したものと言える。

以上

## &lt; 追記 &gt;

PTSD 質問紙については、参加者へのヒアリングの結果、避難後ヨルダンで生まれたケースや幼年期のみをイラクで過ごしたためトラウマ体験の薄いケースがまま見受けられる点、またザルカという土地に起因するドメスティックバイオレンスや貧困の問題はイラク人のみならずヨルダン人も直面している問題である点、現在の体制において、ヨルダン人参加者の存在も無視できない点を考慮し、第 3 期においては、PTSD にのみフォーカスする質問ではなく、日常ストレス・文化葛藤測定を含めた質問紙へと変更した。

また、風景構成法に関しては、前述のとおり実施時間の制約があると考えられるため、より実施時間の短い HTP テスト(注 1)へと変更した。

(注 1) HTP テスト (House-Tree-Person Test) 1948 年に J.N.Buck が開発した投影法検査。白紙に家、木、人物の順で描かせ、家族関係や自己像についての分析を行う。

## ヨルダンにおけるイラク難民支援事業 カウンセリングプログラム概要

### 1. 期間

2008年2月～2009年12月（予定）

### 2. 実施場所

NICCO ザルカ事務所

### 3. 対象者

主に全年齢層のイラク人（重度のケースのみ、ヨルダン人他も含む）

### 4. 目的

イラクでの体験やヨルダンにおける閉塞した状況により精神的負担を抱え、集団療法である心理社会的ケアプログラムでは対応できないイラク人に対して、専門的なチームによりカウンセリングを実施し、症状の改善や軽減を行なう。UNHCR や他の NGO からの照会ケースにも対応する。

### 5. 実施方法

精神科医および2名のソーシャルワーカーの計3名が各週2回カウンセリングを実施する。

基本的には予約制であり、ソーシャルワーカーはクライアントの予約を自ら行い、精神科医の予約に関しては、ソーシャルワーカーからの照会も含めてカウンセリングコーディネーターが行う。

カウンセリングによって得た情報はクライアント毎にカルテにファイルし、カウンセリングコーディネーターがこれを管理し、クライアントが複数回訪問する際には必ずカルテを参照しながらフォローアップを実施する。

### 6. 評価方法

カルテに保管されたレポートにより、クライアントの状況を評価する。

また、ソーシャルワーカーがフォローアップの要否を判断するが、精神科医の受診が必要とみなされた重度のケースについては、GHQ(General Health Questionnaire)の初回アンケートを実施した後、精神科医がカウンセリングを行う。5回のカウンセリング毎にGHQを再実施し、スコアの変動により訪問者の改善状況について評価を行う指標とする。

### 7. 症例

イラク難民が抱える精神的な負担は全年代にわたって非常に大きく、また、ヨルダンにおける未来の見えない生活状況がストレスを更に助長している。

父親が目の前で銃撃され暗闇を恐れる少年、息子が誘拐され身代金受け渡し場所にて死体と対面した父親、ヨルダンへの避難後も途切れることのない脅迫に苦しむ男性、父親が離別した上に叔父が殺害された状況から希望が見いだせず自殺を試みた青年、イラクで多くの殺害を目撃し子どもを虐待する父親、誘拐されかけた経験から外出の恐怖と抑鬱に苦しむ女性など、トラウマ体験を持つ多くのイラク人を受け入れており、個別の継続的なカウンセリングが必要とされている。



姪を誘拐・殺害され、躁鬱症状と自殺願望を持つ女性。(左)



宗教的対立による脅迫から逃れてきた男性(左)。



・父親の殺害を目撃した7歳の少年が描いた絵。

5歳の時、父親が目の前で3発の銃撃により殺害されるところを目撃し、PTSDによる恐怖感、抑うつ症状があった。

一人でいることを好むが、妹や友人への攻撃性も見られた。

精神科医の初診にあたって描画を促したところ、戦車と血を表現した(左)が、多くの殺戮と兵器が存在するイラクに嫌悪感を抱いていた。その後は花・川・魚などの自然を描くようになった(右)が、未だ内部に攻撃性を有していると診断されている。



・目撃した殺害現場のフラッシュバックに苦しむ5歳の少女。

睡眠障害の他に幼い弟への攻撃性も見られる。粘土を渡すと、赤い粘土ばかりを選び細かくちぎって「血」を表現した。カウンセリングを重ね笑顔が見られるようになってきたが、より良い環境を求める家族とともにアメリカへ移住した。



以上

## ミャンマーサイクロン被災者支援事業

## モバイルクリニック診察患者数

地区	実施期間		集落数	患者数
	開始	終了		
ピヤポン	2008/6/30	2008/7/17	10	3,786
ボガレー	2008/7/18	2008/7/31	10	2,215
デディエ	2008/8/1	2008/8/12	10	3,094
ラプタ	2008/6/30	2008/8/12	46	9,118
合計			76	18,213

## 医療関連物資配給先一覧

番号	地区名	配給 開始日	配給 完了日	配給 集落数	配給 世帯数	家庭用医薬品パック		蚊取り 線香	蚊帳		
						大人用	子ども用		2人用	3人用	5人用(*)
1	ピヤポン	2008/7/6	2008/7/12	36	5,271	12,000	4,000	20,000	4,000	4,000	0
2	ボガレー	2008/7/26	2008/7/29	39	4,536	12,000	4,000	20,000	350	350	3,650
3	デディエ	2008/8/6	2008/8/8	34	5,116	9,000	3,000	15,000	300	300	2,700
4	ラプタ	2008/7/31	2008/8/7	29	5,124	12,000	4,000	20,000	350	350	3,650
合計		2008/7/6	2008/8/8	138	20,047	45,000	15,000	75,000	5,000	5,000	10,000

\* 5人用蚊帳はマラリア対策用蚊帳 (Long Lasting Insecticide Treated Net)

**中国四川地震被災者支援  
配布物資一覧**

No	配布対象	配布品目	配布対象数(人)
1	成人男性用	防寒用上着、ズボン、羊毛靴下2足	5,677
2	成人女性用	防寒用上着、ズボン、羊毛靴下2足	5,174
3	中高生男子用	防寒用上着、ズボン、下着、羊毛靴下4足	300
4	中高生女子用	防寒用上着、ズボン、下着、羊毛靴下4足	300
5	小学生男子用	防寒用上着、ズボン、下着、羊毛靴下4足	395
6	小学生女子用	防寒用上着、ズボン、下着、羊毛靴下4足	411
7	幼稚園男児用	防寒用上着、ズボン、下着	98
8	幼稚園女児用	防寒用上着、ズボン、下着	88
9	住民全員	寝具(掛け布団)	12,443

## 平成20年度(2008年度)海外派遣者一覧

(国名別の出国日順)

国名	事業	氏名	職責	出国日	帰国日		
イラン・アフガニスタン	「イラン・アフガン職業訓練」	上田 和孝	職員	2007年12月2日	2008年6月1日		
		上田 和孝	職員	2008年6月14日	2009年1月11日		
		大村 咲恵	インターン	2008年12月1日	2009年2月12日		
		根本 一樹	職員	2009年1月27日	2009年3月末現在派遣中		
ベトナム	「調査・評価」	小野 了代	理事長、マネージメント専門家	2009年2月25日	2009年2月28日		
		小野 修	専務理事、PC専門家	2009年2月25日	2009年2月28日		
		田中 俊也	建築専門家	2009年2月25日	2009年3月4日		
中国	「調査・評価」 「中国四川」	折居 徳正	事務局長	2008年9月2日	2008年9月9日		
		孫 明遠	職員	2008年9月6日	2008年9月20日		
		小松 幸治	インターン	2008年11月2日	2008年12月30日		
		孫 明遠	職員	2008年11月2日	2009年1月8日		
		徳永 加恵	職員	2008年11月2日	2008年12月30日		
		小野 修	専務理事、PC専門家	2008年11月4日	2008年11月10日		
		小野 了代	理事長、マネージメント専門家	2008年11月4日	2008年11月10日		
		折居 徳正	事務局長	2008年11月20日	2008年11月29日		
		根本 一樹	職員	2008年12月10日	2009年1月16日		
		小松 幸治	インターン	2009年1月5日	2009年1月16日		
		マラウイ	「マラウイPC」・ 「マラウイ植林」・ 「マラウイ保健医療」	岡田 千賀子	職員	2008年4月16日	2008年7月9日
				西山 利正	医師	2008年4月27日	2008年5月6日
五味 剛史	職員			2008年5月31日	2008年12月23日		
信定 寛子	職員			2008年6月21日	2009年2月4日		
山本 悠太	職員			2008年8月27日	2008年10月22日		
折居 徳正	事務局長			2008年9月13日	2008年9月20日		
疋田 直子	職員、看護師			2008年10月19日	2009年3月末現在派遣中		
溝江 彩	インターン			2008年10月19日	2009年1月16日		
森 裕介	職員			2008年10月19日	2009年3月末現在派遣中		
氏家 無限	医師			2008年11月17日	2008年11月29日		
三島 伸介	医師			2008年11月17日	2008年11月29日		
宮城 啓	医師			2008年11月17日	2008年11月29日		
荒居 旅人	インターン			2008年12月18日	2009年3月1日		
五味 剛史	職員			2009年1月7日	2009年3月末現在派遣中		
村上 樹里	職員			2009年1月17日	2009年3月末現在派遣中		
氏家 無限	医師			2009年1月26日	2009年2月7日		
田之江 崇文	防疫専門家			2009年1月26日	2009年2月12日		
島崎 貴治	医師			2009年1月26日	2009年2月7日		
宮城 啓	医師			2009年1月26日	2009年2月7日		
小野 修	専務理事、PC専門家			2009年1月31日	2009年2月7日		
小野 了代	理事長、マネージメント専門家			2009年1月31日	2009年2月7日		
ミャンマー	「調査・評価」 「ミャンマーサイクロン」			折居 徳正	事務局長	2008年5月11日	2008年5月18日
				暉峻 僚三	職員	2008年5月11日	2008年5月21日
		藤川 奈実香	医師	2008年5月31日	2008年6月26日		
		折居 徳正	事務局長	2008年6月1日	2008年6月15日		
		暉峻 僚三	職員	2008年6月1日	2008年7月14日		
		折居 徳正	事務局長	2008年6月22日	2008年6月27日		
		寺尾 由美子	看護師	2008年6月27日	2008年8月18日		
		佐藤 収	職員	2008年7月9日	2008年8月23日		
		藤川 奈実香	医師	2008年7月9日	2008年7月16日		
パレスチナ	「パレスチナオリーブ」・「パレスチナPC」・「ガザ人道支援」	吉田 真由美	職員	2007年10月5日	2008年6月20日		
		西山 悦代	職員	2008年5月9日	2008年9月25日		
		吉田 真由美	職員	2008年7月1日	2008年12月24日		
		西山 悦代	職員	2008年10月2日	2009年2月28日		
		片山 淳一郎	理事、マーケティング専門家	2008年11月12日	2008年11月19日		
		塚田 森生	害虫対策専門家	2008年11月12日	2008年11月19日		
		吉田 真由美	職員	2009年1月2日	2009年3月24日		
		折居 徳正	事務局長	2009年2月5日	2009年2月17日		
		藤川 奈実香	医師	2009年2月5日	2009年2月12日		
		西村 和雄	農業専門家	2009年2月10日	2009年2月18日		
		小野 修	専務理事、PC専門家	2009年2月10日	2009年2月21日		
		小野 了代	理事長、マネージメント専門家	2009年2月10日	2009年2月21日		
		上田 和孝	職員	2009年2月16日	2009年3月24日		
		西山 悦代	職員	2009年3月6日	2009年3月末現在派遣中		
		吉田 真由美	職員	2009年3月31日	2008年3月末現在派遣中		
		笠田 亜季	職員	2007年11月5日	2008年4月9日		

ヨルダン	「ヨルダン女性支援」・「イラク避難民」	姫野 敦子	職員	2007年12月7日	2008年4月14日
		新子 和恵	インターン	2007年12月10日	2008年4月1日
		南 詠子	職員	2007年12月25日	2008年6月6日
		大塚 友子	職員	2008年3月1日	2008年7月16日
		久保田 智之	職員	2008年4月15日	2008年7月25日
		中川 政治	職員	2008年4月15日	2008年9月6日
		折居 徳正	事務局長	2008年4月23日	2008年5月2日
		南 詠子	職員	2008年6月11日	2008年12月31日
		大塚 友子	職員	2008年7月22日	2008年10月24日
		久保田 智之	職員	2008年8月3日	2008年12月2日
		鎌田 結衣	インターン	2008年8月22日	2008年9月28日
		中川 政治	職員	2008年9月11日	2009年2月22日
		塩沢 祥子	職員	2008年10月16日	2009年1月15日
		江崎 貴洋	建築専門家	2008年10月30日	2009年3月末現在派遣中
		大塚 友子	職員	2008年10月30日	2009年3月末現在派遣中
		渡辺 菊眞	建築専門家	2008年10月30日	2008年12月6日
		折居 徳正	事務局長	2008年11月10日	2008年11月15日
		久保田 智之	職員	2008年12月15日	2009年3月29日
		川村 藍	インターン	2009年1月5日	2009年3月17日
		塩沢 祥子	職員	2009年1月21日	2009年3月末現在派遣中
		小松 幸治	職員	2009年1月25日	2009年3月末現在派遣中
		渡辺 菊眞	建築専門家	2009年1月28日	2009年2月14日
		今枝 千賀子	職員	2009年2月6日	2009年3月4日
		小野 修	専務理事、PC専門家	2009年2月10日	2009年2月21日
		小野 了代	理事長、マネージメント専門家	2009年2月10日	2009年2月21日
		中川 政治	職員	2009年2月26日	2009年3月末現在派遣中
		安部 香麻里	職員	2009年3月7日	2009年3月末現在派遣中

(合計のべ90名)